

『2 病院の最新医療情報をお届けする』

甲南通信

甲南医療センター開設記念

2019
October
No. 13



身体と心の治癒のために、癒しを提供できる「ゆるキャラ」を作りたいという思いから
 マスコットキャラクターが誕生しました。甲南の「甲」と「南」から取って命名された
 「ドクターこうにゃあ」と「ミナミちゃん」。そして甲南2病院を支えるスタッフのマスコットキャラ達、
 みんなあわせて「コーニャンズ」を、よろしくお願いいたします。



甲南医療センターの最新情報です

CONTENTS (目次)

1 目次	19 脳神経内科	41 【看護部門紹介】
2 ごあいさつ／平生 誠三 理事長	20 小児科	43 看護部
3 ごあいさつ／具 英成 院長	21 消化器外科	【診療技術部門紹介】
5 ごあいさつ／谷 聡 副院長	23 乳腺外科	44 薬剤部
6 概要・フロアマップ	24 呼吸器外科	45 中央検査部
祝 辞	25 整形外科	46 中央放射線部
7 甲南女子大学 学長 森田 勝昭	26 産婦人科	47 中央臨床工学部
神戸薬科大学 学長 宮田 興子	27 形成外科(創傷センター)	48 リハビリテーション部
8 甲南大学 学長 長坂 悦敬	28 耳鼻咽喉科	49 栄養管理部
東灘区長 金谷 勇一	29 眼科(アイセンター)	50 地域連携／患者サポートセンター
9 「コンソーシアムについて」 藤森 明 副院長	30 脳神経外科	【企業広告】
【診療部門紹介】	31 歯科口腔外科	51 みなと観光／うはらの湯
11 糖尿病・内分泌・総合内科	32 泌尿器科	
12 消化器内科	33 皮膚科	
13 循環器内科	34 放射線科	
14 腫瘍・血液内科	35 IVRセンター	
15 緩和ケア内科	36 PETセンター	
16 腎臓内科(血液浄化・腎センター)	37 麻酔科	
17 精神科(神経科)	38 病理診断科	
18 認知症疾患医療センター	39 救急部	



ごあいさつ

医療品質向上への絶えまない

取り組み

理事長 平生 誠三



甲南病院(本年10月より甲南医療センターに改称予定)は昭和9年の開設以来、東灘区の基幹病院として80年以上の長きにわたり地域医療を支えてまいりました。長年懸案であった創立以来の老朽化した甲南病院を、一昨年3月から建て替え工事を開始し、このたび6月末に第一期工事を終了し380床で本年10月より診療を稼働します。引き続き第2期工事として2022年4月を目途に既存館の改修と、更に100床を増床する予定です。甲南会ではこの建て替えを契機として、甲南病院と六甲アイランド甲南病院を統合再編し一体化して地域の医療ニーズに応えるべく取り組んでおります。即ち、甲南病院は地域の中核病院として神戸大学と連携して高度急性期・急性期医療を、一方六甲アイランド甲南病院では地域の診療所の救急患者に対応しつつ新病院と在宅医療等を繋ぐための回復期医療を担ってまいります。そして50年100年を見据え、ハード面のみならずソフト面においても創立理念である「すべての点において人類愛の精神に基づき病人を本位として悩める病人の為の病院たらん」ことを心して、東灘区は勿論のこと兵庫県全域の皆様にご安心安全合わせて医療品質の向上に取り組んでまいりますので、今後とも何卒ご指導ご支援を賜りますようお願い致します。

沿革

昭和9年	甲南病院開院(118床) 看護婦養成所開設	平成18年	3病院で病院機能評価(Ver.4)の認定
昭和30年	甲南病院准看護婦養成所開設	平成20年	甲南病院看護専門学校の閉校
昭和45年	甲南病院付属高等看護学院開校	平成21年	六甲アイランド病院に健診センターを設置
昭和54年	神戸市第二次救急病院に指定	平成24年	公益法人制度改革に伴い「財団法人甲南病院」から「一般財団法人甲南会」へ名称変更する これを機に、六甲アイランド病院が六甲アイランド甲南病院に、加古川病院が甲南加古川病院に名称を変更する
昭和57年	南館新設	平成25年	新甲南病院建設事業計画 始動 (Konan事業ビジョン2020)
昭和59年	開院50周年記念式典	平成27年	甲南病院緩和ケア病棟設置、病床数は380床となる
昭和62年	東館新設(総病床数400床)	平成29年	3月1日 新甲南病院建設工事着工
平成4年	法人本部を設置 六甲アイランド病院開院(307床)	令和元年	10月1日 第Ⅰ期工事竣工「甲南医療センター」に改名し、再スタート
平成12年	国立加古川病院の移譲により、加古川病院開院(250床)		
平成13年	甲南介護老人保健施設開設(80床) 甲南訪問看護ステーション及び甲南居宅介護支援事業所 開設 甲南病院新館を新設		
平成16年	3病院とも医師臨床研修病院に指定		



劇場版アニメーション『涼宮ハルヒの消失』より ©2009 Nagaru Tanigawa・Noizi Ito／SOS団



ごあいさつ 甲南医療センター竣工を迎えて

一般財団法人 甲南会 常務理事／甲南医療センター 院長 具 英 成



2019年 秋麗

新病院の建設には丘陵地を切り開き、2016年4月から構台^{*}を設置する大規模な土木工事が必要でした。これに前後して旧本館など老朽化した既存の建屋を半分切り崩すとともに西側にあった谷川を暗渠にする基礎工事が始まりました。その後、約3年の工期で5階建ての南館、ついで地上7階、地下2階の本館が2019年6月に完工しました。このような一連の難工事が無事に成し遂げられたのには感動すら覚えます。竹中工務店を始め工事関係者の皆様に深甚なる謝意を表します。目下、9月末の新病院の開院に合わせてPET-CTやIVR-CTなど最新鋭の医療機器の搬入を終えたところです。

新病院の竣工を記念し病院名を改称しました。新たな時代の新たな使命に相応しく甲南医療センターになります。病院北側は六甲山が借景となり敷地内の豊かな樹々や屋上庭園の緑が遠近に配されます。となればこのような東灘の基幹病院がどこにあるのか遠くでも分かる標識が必要です。この度、神戸市の厳正なる審議を経て看板の設置が認可されました。風致地区の環境に溶け込み新病院の機能と責務を体現する洗練度の高い看板にする予定です。また屋上や病棟からは紀伊半島から明石海峡がパノラミックに見渡せます。おそらくこの眺望は世界中のどの病院にも勝り、訪れる人の心を晴らし安心安全の医療を補完するでしょう。

甲南医療センター誕生の節目に新しい理念、行動指針を掲げました^(表)。甲南病院には創立時から画期的な理念があります。営利本位に陥らず全ての患者が名医の治療や手術が受けられる患者本位の医療を追求するというものです。新理念、行動指針はその延長で全職員が新時代にどのような医療を目指すのか、いつも心に刻み自らに問いかける内容にしました。近年、医療では遺伝子工学、AIやロボットなど様々な技術革新が進んでいます。しかし、時代が変われど人の手で温かく接することが医療の土台です。全ての職員がいつも忘れず、心技一体で皆様の心の深くに届く高質の医療を実践したいと思います。

神戸は開港以来多くの文化人を輩出し近代化の先駆けになりました。とくに東灘は神戸の先頭で多彩な文化を育んだハイカラな地域です。街のそこかしこに文化の薫る旧跡があります。またこの地域には甲南大学、甲南女子大学、神戸薬科大学など知の集積があり、何事もしぶとく吟味する文化力が蓄えられています。当院は2018年11月、アカデミアや行政と協働し優れた医療人材を育て地域の健康に寄与するプラットフォームを立ち上げました。甲南医療センターはこれまで以上に地域の大学、行政と力を合わせ神戸の医療、東灘の医療を担う要でありたいと願います。そして皆様が安心してそれぞれの健康を託し、地域の誇りと思えるような病院を目指します。

※構台：運搬クレーンなどの建設機械の作業スペース、工事車両の通行、
資材スペース確保に使用する鉄製の頑丈な橋梁
(表)：甲南医療センターの理念と行動指針



皆様に屋上庭園を開放する予定です

理念と行動指針

【理 念】

人の手で接する最善の医療を追求し実現します。
やがて創設100年を迎える基幹病院として公益と継続を重視し、
全職員にて新たな歴史を紡ぎ、誇り高き病院を創ります。

【行 動 指 針】

1. 心技一体で心の深くに届く高質の医療を実践します。
2. 不断の救急医療を全職員で全うします。
3. 地域の医療機関、大学、行政との連携を強化し、総合力のある人材を育成し、絶えず進化する医療を構築します。
4. 最新機器を整備し、緑と静穏な療養環境のもと、安心、安全なチーム医療を実現します。
5. 患者・家族の尊厳を守り、個人情報厳守します。



ごあいさつ 甲南医療センターとなって

甲南医療センター 副院長 谷 聡



この度、平成から令和となり、その元年10月1日に、甲南病院と六甲アイランド甲南病院は医療機能を再編統合し甲南医療センターとなって新しく生まれかわります。新病院が無事に開院出来ましたのは、統合指揮をとられた具本部長の強力なリーダーシップの下、甲南会関係各位のご協力のみならず、地域の皆様方のご支援の賜物であり、心から感謝申し上げますとともに、皆様方の当病院に対する期待の大きさに身の引き締まる思いです。

甲南医療センターは、まず、この10月1日に第1期オープンとして病床数380床でスタートしますが、令和3年4月にグランドオープンした暁には、480床となります。新病院の基本方針は、がん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病の4大疾病を重点課題とし、救急医療、周産期医療、小児医療、災害医療の4事業とともに、感覚運動器疾患（耳鼻咽喉科、眼科、整形外科）を強化しました。また、消化器病センター、糖尿病センター、血液浄化・腎センター、PETセンター、IVRセンターに加えさらに、脳卒中センター、アイセンター、創傷センター、中耳サージセンター、認知症疾患医療センターと10センター機能を並列し、今までの甲南病院と六甲アイランド甲南病院にはなかった心臓血管外科や呼吸器外科を新たに加え29の診療科で構成されます。PETや高気圧酸素治療装置等の高度医療機器を導入し、高度な先進医療を提供することが出来るようになりますが、これまで以上に地域の医療機関との連携を密にし、東灘区のみならず神戸市並びに阪神地区に渡る地域における急性期医療と、そして緩和ケア病棟を有し終末期医療も兼ね備えた基幹病院として、中心的な役割を果たすべく前進してまいります。そのためには、365日24時間、断らない救急医療を実践し、地域の方々に愛され信頼される安全で安心な病院になることを目標に掲げています。

さて、2025年にはいわゆる「団塊の世代」が全て75歳以上となる超高齢社会を迎えることになります。医療をとりまく社会的環境は大きく変化しており、求められる医療ニーズとして、病気と共存しながらQOLの維持・向上を図っていく必要性が高まっています。地域包括ケアシステムにおける医療を提供するにあたり、病院としての重要な課題は、医療と介護を上手にリンクした急性期病院としての役割をいかに果たすかです。甲南医療センターでは、地域の医院並びに病院や介護施設からの急性期治療の要請に対して、迅速かつ常時に対応して入院を受け入れるとともに、急性期治療が終了した後は速やかに在宅あるいは施設に戻って頂けるように地域医療連携のネットワークの中心的存在でありたいと考えています。

そして最も大事なことは、大学や市民病院と肩を並べる高度な先進医療を提供できる病院となっても、私たちは常に患者さんに寄り添い、温かく心優しい、患者さん本位の医療を提供する姿勢であり続けることです。甲南病院創設者である平生 鈺三郎が掲げた「人類愛の精神に基づき、悩める病人のための病院たらん」とする基本理念をしっかりと踏襲し、人の手で接する医療を実現し、思いやりのある気持ちを大切にした診療を実践できる病院となることを行動理念として掲げました。質の高い医療を提供する上で、患者視点の医療を提供するためには、私たち医療者が診療科や職種の垣根を超えて横に手を繋いで協力したチーム医療を提供することが大事だと考えています。

患者さんに愛され信頼される地域社会に開かれた病院となるべく、全職員が一丸となって取り組んで参りますので、引き続き皆様方の温かいご支援とご鞭撻を宜しくお願いいたします。



南側から望む甲南医療センター

概要



- **土地面積** 第1期 26,554.19㎡
- **病床数** 380床（一般病床：380床）
- **診療科目** 内科／外科／小児科／眼科／産婦人科／耳鼻咽喉科／放射線科／整形外科／皮膚科
泌尿器科／リハビリ科／精神科／形成外科／腎臓内科／消化器内科／循環器内科
呼吸器内科／脳神経内科／腫瘍血液内科／リウマチ内科／緩和ケア内科／消化器外科
乳腺外科／呼吸器外科／心臓血管外科／脳神経外科／麻酔科／歯科口腔外科／病理診断科
- **外来診療** 受付時間：8時30分～11時30分
診療時間：9時00分～17時00分
- **建物** 地下2階 地上7階
- **職員数** 738名（2019年10月1日現在、常勤職員）
- **入院基本料施設基準** 急性期一般入院料1／緩和ケア病棟入院料1

●各種学会認定資格（2019.10.1～）

- ・日本内科学会 認定医制度教育病院
- ・日本循環器学会 認定循環器専門医研修施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会 研修関連施設
- ・日本内分泌学会 認定教育施設
- ・日本糖尿病学会 認定教育施設Ⅰ
- ・日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設
- ・日本病態栄養学会 栄養管理・NST実施施設
- ・日本緩和医療学会 認定研修施設
- ・日本血液学会 血液研修施設
- ・日本神経学会 准教育施設
- ・日本頭痛学会 准教育施設
- ・日本消化管学会 暫定処置による指導施設
- ・日本透析医学会 認定施設
- ・日本腎臓学会 研修施設
- ・日本外科学会 専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会 専門医修練施設
- ・日本消化器病学会 認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会 指導施設
- ・日本肝胆脾外科学会 高度技能専門医修練施設B
- ・日本肝臓学会 認定施設
- ・日本胆道学会 指導施設
- ・日本腹部救急医学会 認定施設→申請中
- ・日本脾臓学会 指導施設→申請中
- ・日本乳癌学会 認定医専門医制度認定施設
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構 マンモグラフィ検診施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 エキスパンダー実施施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 インプラント実施施設
- ・日本がん治療認定医機構 認定研修施設
- ・日本脳神経外科学会 関連施設
- ・日本医学放射線学会 専門医修練機関
- ・日本IVR学会 専門医修練施設
- ・日本小児科学会 小児科専門医研修施設
- ・日本アレルギー学会 教育研修施設
- ・日本周産期・新生児医学会 補完研修施設（こども病院）
- ・日本産科婦人科内視鏡学会 認定研修施設
- ・日本整形外科学会 研修施設
- ・日本手外科学会 基幹研修施設→申請中
- ・日本形成外科学会 認定施設
- ・日本泌尿器科学会 専門医教育施設
- ・日本眼科学会 専門医制度研修施設
- ・日本皮膚科学会 専門医研修施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会 専門医研修施設
- ・日本気管食道科学会 専門医研修施設（咽喉系）
- ・日本麻酔科学会 認定病院
- ・日本病理学会 研修登録施設

フロアマップ



～お祝いの言葉～

新たな医療文化創生への期待

甲南病院グループが、高度地域医療の総合拠点施設創生のため組織的なイノベーションに着手されて以来、甲南4法人の一員としてその成果を心待ちにしておりました。画期的な患者中心の医療思想に基づいて平生鈺三郎氏により1934年に開設された甲南病院をはじめとするグループが、ハード、ソフト両面での大幅な再統合・再編を実現し、急性期医療、回復期医療、在宅医療、さらには新たな健康社会創生までを視野にいたれた総合的な医療ネットワークのハブとして甲南医療センターを創設されたことに対し、心よりお慶び申し上げますとともに、壮大なビジョンを実現された理事長、病院院長はじめ関係職員各位のご尽力に対し心よりの敬意を表します。甲南女子大学は、1920年の甲南高等女学校創設で教育を開始した甲南女子学園の教育機関です。第一次世界大戦直後の人権意識や民族自覚が高まる世界的転換期に、「まことの人間を育てる」という人間教育宣言と共に活動を開始し、現在、医療系2学部3学科を含む4学部11学科の大学として活動を続けています。甲南病院からはすでに多くの専門家の教育現場への派遣を頂いており、大学からは施設への講師派遣、臨床実習さらには共同臨床研究など、多様な連携事業が始まっています。

昨年は甲南病院、甲南大学、神戸薬科大学、東灘区役所とともに医療人材育成のためのコンソーシアムが結成されました。地域の総合医療を担う甲南医療センターとともにコンソーシアムを運営できますことは大きな社会的意義を有するとの認識に立ち、センターとの協働で優秀な医療人材育成と地域社会の健康創生推進に寄与できることを大きな喜びとするところです。医療は人類が生み出した総合的文化です。心身のみならず生存環境や社会的環境への働きかけを通じて、さまざまな世界観を生み出し新たな人類文化を創出していきます。甲南医療センターが、甲南グループの創始者平生鈺三郎氏の高い人類愛と新たに掲げられた理念「心技一体」を実現し、21世紀を拓く医療文化を創生していかれることを期待してやみません。



甲南女子大学 学長
森田 勝昭

甲南医療センター開院を祝して

この度は、甲南会様におかれましては、現甲南病院の建替えと同時に六甲アイランド甲南病院と統合・再編をされ、新たに甲南医療センターを開院されますこと、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。また、貴院の方々には本学学部生及び卒業生に心温まるご指導をいただいておりますことに深く感謝いたしております。

貴院におかれましては古くから神戸の東地区における基幹病院として地域医療を担ってこられました。この度リニューアルだけでなく、さらにソフト面も充実され、医療の水準をより一層高められるとお聞きしております。一方、昨年、11月17日に若手医療人材の育成と住民の方々の健康増進を目的に甲南会、東灘区役所、甲南大学、甲南女子大学及び本学(神戸薬科大学)の2機関、3大学で構成する東灘次世代医療人材育成コンソーシアムが結成されましたが、この中心的存在になられるのも甲南会様です。

このコンソーシアムにおける本学の使命は、質の高い医療に参画できる薬剤師を輩出すると同時に、薬学という学問を通して東灘区の医療課題を解決することです。医療人材としての薬剤師を育成するには多職種連携教育も必要で、この点につきましては、現在神戸大学との連携でご協力いただいております。今後は本コンソーシアムにおきましても本学学生及び卒業生のさらなる成長にお力添えをいたしたく存じます。地域で育てていただきました薬剤師が地域の医療に携わり、病気で困っておられる方々のより高度な薬物治療分野において積極的に取り組むことができることを願っています。

最後になりましたが、これからの甲南会様の益々のご発展をお祈りいたしますと共に、東灘次世代医療人材育成コンソーシアムの活動を通して、本学の教育力と研究力で地域医療に貢献できるよう努力して参ります。



神戸薬科大学 学長
宮田 興子

甲南医療センターへの期待

甲南医療センター開院おめでとうございます。2019年10月に甲南病院と六甲アイランド甲南病院との機能統合、2022年4月には甲南医療センターが480床の急性期病院に、六甲アイランド甲南病院は192床の回復期主体に展開されるとのこと。まさに機能分化と連携により、東灘区の医療を支えていただくこと、地域の大きな期待になっています。

平生鈺三郎は、1911年に甲南幼稚園、1912年に甲南小学校を設立し、1919年に甲南学園を設立しました。そして、1934年に患者本位の治療を施すために甲南病院を設立しています。甲南大学、甲南中学・高等学校を有する甲南学園は今年、2019年4月21日に創立100周年を迎えることができました。平生鈺三郎の意志を継いで、各法人は重要な任務をもち続け、東灘のこの地で、徳・体・知のバランスのとれた心豊かな人物、健全な常識を持った世界に通用する人物の育成、そして、病人本位の医療とさまざまな事業を展開してきました。そして、この甲南医療センターは現代において平生鈺三郎の思いを実現させる特筆すべき事業です。ここまで作り上げてこられた関係者の方々のご尽力に心から敬意を表します。また、これからの活動に大いに期待を申し上げます。

2018年11月には、甲南病院、甲南女子大学、神戸薬科大学、甲南大学、東灘区役所が「東灘次世代医療人材育成コンソーシアム」を結成しました。東灘の知を集め、医療課題の解決、医療人材の育成にも貢献できるプラットフォームとして期待されることです。

Society5.0の時代、人生100年時代において、QOL(Quality of Life)はとても大切なテーマになります。「豊かに生きる」、この大きなテーマに向かって、平生鈺三郎のいう「共働互助の精神」は改めて重要です。地域の皆さんと一緒に進んでいけますように、何卒よろしく願いいたします。



甲南大学 学長
長坂 悦敬

甲南医療センターオープンに寄せて

甲南病院および六甲アイランド甲南病院の再編・統合による「甲南医療センター」オープンに心からお慶び申し上げます。

甲南病院は昭和9年に創設され、「人類愛の精神に基づき、悩める病人のための病院たらん」という平生鈺三郎氏の思いを基本理念として積極的に診療体制の充実に取り組んでこられました。創設以来、医療の向上と公平な医療サービスの提供にご貢献いただきましたことに対し、厚く御礼を申し上げますとともに、具院長をはじめ歴代院長、病院関係者のみなさまの多大なるご努力に対し、深く敬意を表する次第です。

さて、ご承知のとおり、我が国は世界に類を見ない速度で高齢化が進展し、超高齢社会を迎えております。人口減少により、社会保障制度、医療制度の見直しや医師不足の問題など、医療・介護を取り巻く環境は非常に厳しい状況に直面しています。東灘区におきましても、少子高齢化に伴う医療ニーズが高まり、区内に公的医療機関の設置を求める声が聞かれるなど、地域社会の変化に対応できる医療の確保が課題となっております。地域で生活する区民のみなさまが安心してこどもを生み育て、いつまで暮らし続けることができる環境の整備と併せ、命と健康を守る地域医療体制の充実が求められています。このような中、甲南医療センターにおいて急性期医療の充実や高度医療の提供が整備され、六甲アイランド甲南病院では回復期を主体とした病院へと転換されるなど、2つの病院が緊密に連携し、質の高い医療が提供される体制を整えられました。これからも甲南医療センターおよび六甲アイランド甲南病院のお力添えをいただきながら、誰もがいきいきと健やかに過ごすことのできるまちを目指し、尽力してまいりますので、ご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、甲南医療センターおよび六甲アイランド甲南病院の今後益々のご発展を心からお祈りいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



東灘区長
金谷 勇一

東灘次世代医療 人材育成コンソーシアム

厚生労働省においては、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるという構想です。今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要とされています。人口動態は地域によって違うため、地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要とされています。

自分が介護を受ける状況になった場合、家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたいという意見が半分近くを占め、介護サービスに対する期待は非常に大きいものがあります。しかし、高齢化がすすむために介護保険給付金額はうなぎのぼりになっています。保険料の値上げで対応してはいますが、いつまでこのシステムが維持できるのか懸念される状況であります。

私たち甲南会は、高度急性期医療を担う甲南医療センターを中心に地域医療に携わっていくつもりではありますが、急性期医療だけを担当するのでは、この高齢化社会において阪神地区を真に支えていくには不十分と思われます。今後六甲アイランド甲南病院では、回復期の医療を提供し、甲南介護老人保健施設、甲南訪問看護ステーションでは今まで通りの事業を継続していきます。より充実した介護のための在宅系サービス、施設・居住系サービスの拡大も大切なことだと思うのですが、財源の確保が困難となる近未来では、お年寄りにいつまでも元気で自立した生活を送っていただくための、生活支援・介護予防がより重要になってくるものと思います。このため甲南会は、東灘区役所、甲南大学・甲南女子大学・神戸薬科大学と連携して東灘次世代医療人材育成コンソーシアムを立ち上げました。市民公開講座を開催し、住民の生活習慣改善、疾病予防活動を推進します。また、地域医療に携わる人材を育成し、東灘の地域包括ケアの未来を開拓していこうと考えています。



甲南医療センター
副院長
藤森 明

東灘次世代医療人材育成コンソーシアムの構成



診療部門紹介

ドクターこうにやあとコーニャンズ

みなさま
よろしくお願いいたします



内科系

- ◎ 糖尿病・内分泌・総合内科
- ◎ 消化器内科
- ◎ 循環器内科
- ◎ 腫瘍・血液内科
- ◎ 緩和ケア内科
- ◎ 腎臓内科（血液浄化・腎センター）
- ◎ 精神科（神経科）
- ◎ 認知症疾患医療センター
- ◎ 脳神経内科
- ◎ 小児科

外科系

- ◎ 消化器外科
- ◎ 乳腺外科
- ◎ 呼吸器外科
- ◎ 整形外科
- ◎ 産婦人科
- ◎ 形成外科（創傷センター）
- ◎ 耳鼻咽喉科
- ◎ 眼科（アイセンター）
- ◎ 脳神経外科
- ◎ 歯科口腔外科
- ◎ 泌尿器科
- ◎ 皮膚科
- ◎ 放射線科
- ◎ IVRセンター
- ◎ PETセンター
- ◎ 麻酔科
- ◎ 病理診断科
- ◎ 救急部

糖尿病・内分泌・

総合内科

●山田 浩幸 副院長
●福永 馨 診療部長
●肥後 里実 部長 他 常勤医6名

東神戸で唯一の内分泌専門病院として精度の高い医療を提供

糖尿病・内分泌

多職種による糖尿病ミーティングの様子

◎こんなコトしています

糖尿病は世界規模で増加しており、本邦でも厚労省の調査で糖尿病患者と予備軍を合わせて2000万人。症状がなくてもきちんと管理しないと寿命が短くなる重要な疾患の一つです。糖尿病の診療では、薬物治療のみならず生活習慣の指導が不可欠ですが、一人ひとりの性格も生活習慣、体質も異なるため、その指導はオーダーメイドで行う必要があります。当院の糖尿病センターでは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師、臨床心理士などの各専門スタッフが多職種チームできめ細やかな生活習慣指導を行い、糖尿病と付き合ううえで最も効果的なアプローチができるよう取り組んでいます。さらに、**持続血糖測定器(CGM)**など種々の検査を用いた精度の高い診療と、日々進歩する薬剤や**持続血糖測定センサー付インスリンポンプ療法(SAP)**などの最新治療も適宜活用しながら専門性の高い糖尿病診療を行っています。様々な専門スタッフが関わる糖尿病教育入院も、患者さまや連携する医療機関のお役に立てるものと確信しております。ぜひ、当院の糖尿病センターをご活用ください。また、当院は**東神戸で唯一の内分泌専門病院(認定教育施設)**であり、内分泌疾患として下垂体、副腎、甲状腺および副甲状腺などの疾患に対して、最新の知見に基づいた正確な診断と治療を行っています。特にバセドウ病や橋本病(甲状腺疾患)、原発性アルドステロン症(副腎疾患)などの頻度の高い疾患を中心として、幅広く診療しています。

◎こんなコト専門にしています

- 糖尿病疾患**: 1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病および糖尿病合併妊娠、低血糖症、糖尿病ケトアシドーシスなど、すべての糖尿病
- 内分泌疾患**: 下垂体、副腎、甲状腺および副甲状腺など内分泌腺に関係する各種疾患

◎こんなコト目指します

甲南医療センターとなりこれまで以上にスタッフも充実しました。糖尿病も内分泌疾患も専門スタッフの力を結集し、1人でも多くの患者様のお役に立てるよう努力してまいります。また、糖尿病教室や教育入院による患者教育や地域の医療機関との連携もこれまで以上に強化していきます。

内分泌疾患を得意とする
吉田 医長



西山 医員

苛原 医員

総合内科

◎こんなコトしています

最近の病院は医療の専門化や高度化により診療科が細分化されていて、受診に困る症状や疾患が増加しています。例えば高齢者などで複数の併存疾患を有する場合や、多臓器の不調がある場合も一つの診療科では解決が難しくなります。複数科の受診で内服薬が増えすぎることもしばしば認めます。そういった患者さまが安心して受診できるように、当院では総合内科を設置しています。**“内科”としてバランスのとれた全人的治療**を提供してまいります。

◎こんなコト専門にしています

- 内科全般**:
 - 複数の臓器にわたる症状、疾患
 - 特定の臓器、領域に絞れない症状、疾患 など

◎こんなコト目指します

甲南会では長年にわたり地域の基幹病院として総合的な“内科”医療を提供してきました。時代とともに病院に求められる機能も変化しましたが、今後も医療の専門化、細分化の間で患者さまや地域の連携医療機関の皆様が困られることの無いよう、一般的な病気から診断困難な難病まで、各専門科との連携や最新の画像診断技術なども活用し、精度の高い総合内科としての診療を継続していきます。

消化器内科

●西岡 千晴 統轄部長
●南 晶洋 部長 他 常勤医7名

最新の内視鏡診断・治療に習熟した
各消化器官の専門医が対応

◎こんなコトしています

南 部長による腹部エコー検査



河原 医長によるESD治療

当科では、消化管、胆膵、肝臓の各分野を専門とするスタッフが診療にあたり、幅広い疾患に対応しています。新内視鏡センターには、快適な検査空間と最新の内視鏡機器(OLYMPUS EVIS LUCERA ELITE、FUJIFILM LASEREO)を備えました。基本的に鎮静剤を少量使用し、苦痛の少ない検査を実現します。最新の内視鏡診断・治療に習熟したスタッフが、画像強調拡大内視鏡(NBI、BLI)や超音波内視鏡も用いて、詳細な観察、正確な診断を行っています。外科や放射線科、腫瘍・血液内科と連携して、最適な治療方針を検討し集学的治療を行います。

◎こんなコト専門にしています

当科で施行している検査・治療の抜粋です。詳細は病院ホームページに説明しておりますので是非ご覧ください。(担当専門医)

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD) (食道・胃・大腸)	●消化管の早期がんの内視鏡的切除 安全確実で、体への負担が少ない治療です。	西岡 河原
経口内視鏡的筋層切開術(POEM)	●アカラシア(食道運動異常)に対する内視鏡治療 当院は関西で2番目に導入。経験を積んだ内視鏡医が施行し 良好な治療成績をおさめています。	河原
内視鏡的逆行性胆膵管造影 (ERCP)	●総胆管結石の採石・砕石 ●胆膵領域のがんの診断、術前精査 ●胆道閉塞に対するドレナージ	南 河原 山中
超音波内視鏡検査(EUS) 超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診 (EUS-FNA)	●消化管のがんの深達度診断 ●胆膵領域のがんの診断、特に膵臓がんの早期発見に有用な検査 ●粘膜下腫瘍の精査 EUS-FNAによる病理組織学的診断が可能です。	松浦 山中
超音波内視鏡下胆道ドレナージ術 (EUS-BD)	●胆道閉塞に対するドレナージ ERCPによる胆道ドレナージができない場合の選択肢のひとつで、体表にチューブが出ないのが利点です。神戸大学消化器内科と連携しています。	山中
カプセル内視鏡	●小腸疾患(出血、潰瘍、腫瘍など)を疑うときの検査 ●大腸内視鏡挿入困難例に対し大腸カプセル内視鏡	西岡
ダブルバルーン内視鏡	●小腸疾患の精査、治療 ●術後腸管のERCP	西岡・南・河原 松浦・三村・山中 首藤・原田・松井
経皮的ラジオ波焼灼療法(RFA)	●肝細胞癌の焼灼 外科、放射線科と連携し手術、肝動脈化学塞栓術(TACE)も含めて 治療法を検討した上で施行します。	南 松浦
緊急内視鏡(吐血や下血、血便など)	夜間もオンコール体制あり、24時間365日対応可能です。	西岡・南・河原 松浦・三村・山中 首藤・原田・松井

◎こんなコト目指します

甲南病院・六甲アイランド甲南病院双方の消化器内科医が、甲南医療センター消化器内科として集結、さらに質の高い診療を行っています。消化器病学会、消化器内視鏡学会、肝臓学会の指導施設として、若手医師の育成にも努めていきます。

循環器内科

●清水 宏紀 副院長
●大久保 英明 診療部長
●太田 総一郎 部長
●下川 泰史 部長
他 常勤医5名

東神戸地区の循環器内科診療の要として多様な診療を実践

◎こんなコトしています

甲南医療センターに拠点を移し最新の設備のもと、24時間365日受け入れる循環器救急医療、専門的なカテーテル治療、不整脈治療、急性心不全治療など質の高い診療を積極的に行います。

清水 副院長

◎こんなコト専門にしています

◎虚血性心疾患(急性心筋梗塞・狭心症) (担当専門医:太田・下川・田中)

●スクリーニング検査の実施

負荷心筋シンチグラフィ、心臓CT検査、運動負荷心電図検査
必要に応じて、入院の上カテーテルでの冠動脈造影検査(CAG)
※冠動脈造影検査に際しては必要に応じて冠動脈血流比(FFR)測定を実施狭窄病変による血流障害の程度を計測しカテーテル治療(PCI)が必要かを評価します。

●カテーテル治療

血管内超音波(IVUS)や光干渉断層法(OCT)を用いて血管の状態を詳細に評価しながら、より確実で安全な治療を実施しています。
※糖尿病、高血圧、脂質異常症、喫煙歴などのリスク因子のある患者さんは積極的にスクリーニング検査を行い心筋虚血の有無を調査。特に急性冠症候群(ACS)は一刻を争う重篤な疾患であり24時間365日の救急受け入れが可能な体制を構築。緊急カテコールでスタッフが集合し『Door to Balloon Time』は90分以内達成を目指します。



太田 部長によるASO治療

◎末梢動脈疾患(PAD) (担当専門医:太田・田中)

●CT、MRI及び間欠性跛行などの症状がある症例では血管造影

※虚血性心疾患、脳血管障害を合併していることが多く、生命予後は不良です。

●血管内治療

・下肢動脈ステント ・薬剤溶出性バルーンを用いたカテーテル治療
※下肢切断を必要とする場合には形成外科とも連携:足の動脈だけではなく、虚血性心疾患、脳血管の精査も行い、包括的なチーム医療を実践しています。

◎不整脈 (担当専門医:清水・兵庫・黒瀬)

●徐脈性不整脈(洞不全症候群、房室ブロック)

恒久的ペースメーカー植込み術

●頻脈性不整脈(心房細動、心房粗動、発作性上室性頻拍など)や期外収縮

カテーテルアブレーションによる根治を目指します ※特に症候性心房細動に対しては第一選択の治療法と考えています。

◎心不全 (担当専門医:清水・大久保・下川)

●積極的に心不全患者を受け入れ、早期から多職種と協同で心臓リハビリテーションを実施しています。

●質の高い生活を送るための教育・生活指導・カウンセリングの実施 ※退院後も心不全患者では日常生活における綿密な管理が必要になるため、地域の医療機関や訪問看護ステーションとの連携を行いながらサポートします。

◎心臓リハビリテーション (担当専門医:水谷)

心筋梗塞、狭心症、心不全などで急性期治療を受けた患者さんが社会復帰し、再発を予防して、最終的に快適で良質な生活を目指すために、運動療法だけでなく食事療法・生活指導・カウンセリングなどを包括的に行うプログラムです。医師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、栄養士、臨床心理士、ソーシャルワーカーでの多職種チームを組んで個々の患者さんに対応しています。甲南医療センターでは主に急性期から亜急性期の患者さんを対象に、また六甲アイランド甲南病院では亜急性期から慢性期の患者さんを対象に心臓リハビリテーションを連携しながら行っています。



心臓リハビリテーションの様子

◎こんなコト目指します

甲南、六甲2病院の特徴を活かして密接な連携を行い、東神戸地区の循環器診療の要として急性期から慢性期まで地域に根ざした診療を行います。また、循環器内科の中核病院として住民、病院・診療所の医師、救急隊から信頼されるよう努力していきます。

腫瘍・血液内科

●谷 聡 副院長
●下山 学 診療部長
●茶屋原 菜穂子 部長

化学療法や免疫療法を用い 安心で最適な治療を提案

◎こんなコトしています

下山 部長による診察

◎腫瘍内科

悪性腫瘍(がん)に罹患された患者さんに対する内科的な治療、特に抗がん薬による治療(化学療法)を専門的に行っています。免疫療法などの最新治療を含め、科学的根拠に基づいた上で、患者さんのご希望、生活状況や全身状態を考慮して最適な治療手段を提案させていただきます。治療方針を決定するにあたり、科内でのカンファレンスのみならず、各臓器別診療科、放射線科(放射線治療科)などによる診療科の垣根を越えたカンサー・ボードを開催し、多角的な視点からディスカッションを行っています。治療に際しては治療の目的や治療上の注意点について詳細に説明し、ご理解いただいた上で開始します。外来化学療法室を備えており通院治療が可能です。ご高齢、遠方にお住まいなど通院治療が困難な患者さんにつきましては治療時の入院も可能です。



◎血液内科

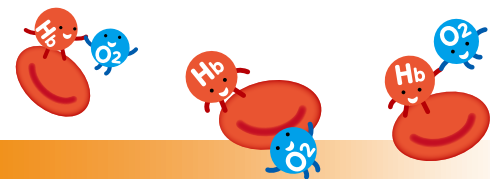
造血器悪性腫瘍(血液がん)だけでなく、貧血、血小板減少、多血症、血小板増加症、血友病といった血液細胞(白血球、赤血球、血小板)の数的・質的異常を対象とした診療科です。悪性腫瘍に関しては造血器悪性腫瘍に特化した専門的治療を行っています。化学療法は内服や外来化学療法室で施行可能なものから入院が必要なものまで様々な治療強度のものが有ります。当科は4室の無菌治療室を備えており白血病に対する寛解導入療法や骨髄腫、リンパ腫に対する自家末梢血造血細胞移植などの大量化学療法も行います。血液細胞の増加や減少の精査も行いますので検診などで異常値を指摘された方はお気軽にお越し下さい。



腹腔内リンパ節腫大を生じた悪性リンパ腫



化学療法施行後、リンパ腫病変(丸で囲んだ部分)は縮小した。



◎こんなコト専門にしています

◎腫瘍内科 (担当専門医:谷・茶屋原)

血液がんを除く悪性腫瘍全般。原発不明がんや、2つ以上のがんがあるなど臓器別診療科だけでは対応が難しいがんにも対応します。

◎血液内科 (担当専門医:下山)

血球数の増加・減少の精査から血液がんに対する大量化学療法まで幅広く対応します。

◎こんなコト目指します

腫瘍・血液内科は、患者さん一人一人の病態、ニーズに合わせ、かかりつけの近隣の先生方とも連携しながら科学的根拠に基づいた治療を提供していきます。また安心して治療を継続していただける様に、がんあるいは治療に伴う苦痛、不安を軽減することを目的とした緩和ケア医、精神科医、看護師(がん化学療法認定看護師在籍)、薬剤師(がん薬物療法認定薬剤師在籍)、栄養士、理学療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカーなどによる多職種のチーム医療体制を充実させていきます。

緩和ケア内科

●久保田 眞毅 部長
●山口 崇 部長
他 常勤医5名

習熟した専門医、スタッフが苦痛を和らげ
より良い豊かな生活をサポート



山口 部長による病棟回診

“緩和ケア”について

世界保健機関(WHO)では、“緩和ケアを以下のように定義しています。”

◎世界保健機関(WHO)による緩和ケアの定義(2002年)

“緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者およびその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、QOLを改善するアプローチである”



久保田 部長

少しわかりやすく表現すると、「重い病を抱える患者さんやその家族ひとりひとりのからだや心などに起こる様々な苦痛(つらさ)を和らげて、より豊かな生活を送ることができるように支えるケア」といえます。

◎こんなコトしています

現在、緩和ケア内科の診療は、**緩和ケア病棟における入院診療**を基本としております。緩和ケア自体は、対象とする疾患を制限するものではありませんが、現時点では、緩和ケア病棟への入院対象患者は、**悪性腫瘍**ならびに**後天性免疫不全症候群**に罹患している患者さんとされています(平成30年厚生労働省告示第44号:基本診療料の施設基準等の一部を改正する件[緩和ケア病棟入院料の施設基準等]より抜粋)。
具体的な診療内容は、主に以下の5つのことに関して、“**専門的緩和ケア**”を提供しております。

- ① 痛みや気持ちのつらさなどのからだやこころの苦痛症状の緩和
- ② すごしたい(住み慣れた)環境での療養をサポートする在宅療養調整
- ③ 肺炎など突発的な合併症に対する治療
- ④ 介護疲労軽減のためのレスパイト入院
- ⑤ 終末期ケア・遺族ケア



八木 医長



五十嵐 医長

◎こんなコト目指します

今後予想される高齢化の進行に伴い、がんを抱えながら過ごす地域住民の増加が見込まれます。そのような中、近隣の患者さんが、なるべく“過ごしたい場所”で安心して、より良い暮らしができるためのお手伝いをするのが我々の役割だと考えています。われわれは当面、主として入院機能を担ってまいります。将来的には、コンサルテーション機能を充実させ、一般病棟入院中・外来通院中の患者さんへの対応や在宅療養中の患者さんに対してかかりつけ医の先生との共同診療などを行い、院内および地域の緩和ケアレベルの向上に寄与したいと考えています。

腎臓内科 (血液浄化・腎センター)

●藤森 明 副院長

●岡田 志緒子 医長 他 常勤医2名

抜群の環境で
一貫した腎臓病治療を提供



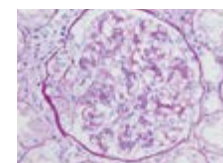
藤森 副院長

◎こんなコトしています

当院は日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設であり、腎臓内科は指導医2名と医員・専攻医の4名で診療をおこなっています。蛋白尿から維持透析まで、移植を希望される場合以外は、**一貫した腎臓病治療**ができることが当院の特徴です。

◎こんなコト専門にしています

◎ **腎 炎** 蛋白尿や血尿といった検尿異常は腎炎の重大なサインです。慢性腎炎の場合、何も症状が無いからと言って放置してしまうと手遅れになってしまいます。早期の診断と治療が大切です。当科では腎生検による正確な診断のもとで適切な治療をおこなっています。慢性腎炎で最も多いものはIgA腎症です。IgA腎症に対しては、扁桃腺摘出術(耳鼻科に依頼)とステロイドパルス治療を組み合わせる治療をおこなっています。



<IgA腎症>

◎ **ネフローゼ** 腎臓から大量の蛋白が漏れてしまう結果、体の浮腫みがひどくなる病気がネフローゼ症候群です。ネフローゼにも多くの種類があり、腎生検で正確に診断することが必要です。診断に基づいてステロイド剤や免疫抑制剤の治療をおこなっています。

◎ **慢性腎臓病(CKD)** CKDは治すことは困難な病気ですが、進行を遅らせることは可能です。食事療法など生活習慣の是正も治療の大切な一部であり、そのために教育入院もおこなっています。また多くの場合、診療所の先生と連携をとりながら治療をおこなっています。

◎ **腎不全** 残念ながらCKDが進行して腎不全に至った場合には、腎臓の代わりに体に蓄積した毒素をとりのぞく治療(腎代替療法)が必要となります。腎代替療法には、腎移植と血液透析、腹膜透析の3種類があります。これらの説明を専門看護師とともに時間をかけておこない、希望があった場合は腎移植実施施設への紹介をおこなっています。移植が困難な場合は、適切な時期に血液透析または腹膜透析を導入いたします。バスキュラーアクセス手術や腹膜透析カテーテル留置術も腎臓内科でおこなっています。

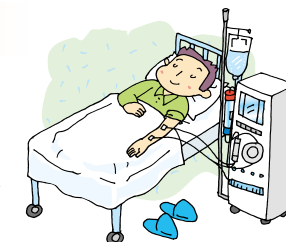


透析治療

◎ **維持透析** 当院血液浄化センターでは血液透析ベッド29床で午前午後の2クルールの治療をおこなっています。**オンラインHDF、間欠補充型HDF**といった最新の治療も積極的に取り入れています。**腹膜透析管理、腹膜透析と血液透析の併用治療**もおこなっています。また他院からの紹介で、循環器内科、消化器内科、外科、整形外科、形成外科などの急性期治療が必要な場合、入院中の透析と全身管理は当科で担当しております。長期リハビリテーションが必要な場合などは、六甲アイランド甲南病院に転院していただいて透析治療を継続するようにしています。六甲アイランド甲南病院では血液透析患者さんの送迎のサービスもおこなっています。

◎こんなコト目指します

腎臓病はどうせ治らないというイメージから、いよいよ透析が必要といった状態で初めてご紹介いただくようなことが以前は多かったと思います。しかし近年、腎臓病に対する認識が少しずつ変化し、早期の段階で紹介していただけるようになってきました。今後は地域の先生方との連携をより強くして、“**腎臓病なら甲南病院**”と皆さまに思ってもらえるようにしていきたいと思っています。



精神科（神経科）

- 松山 賢一 医長
- 田村 浩恵 認知症看護専門看護師
- 奥澤 朋奈 臨床心理士

専門医、認定看護師、
公認心理師による心理的ケアを行い、
治療をサポート



松山 医長と認知症ケアラウンドメンバー

◎こんなコトしています

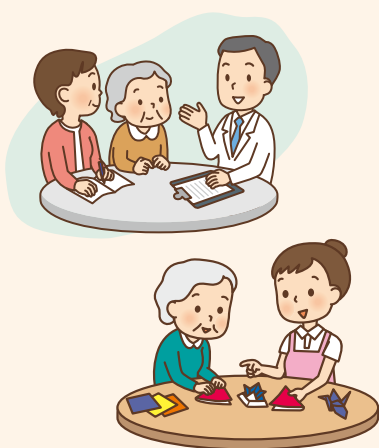


認知症ケアラウンド事前ミーティング

◎ 入院患者さんのケア

コンサルテーション・リエゾン、および認知症ケアラウンドと呼ばれる病棟回診を定期的に行います。前者は、入院患者さんがせん妄、不眠、不安、抑うつなどの精神症状を生じて、入院治療に支障をきたしている場合に、薬物治療や心理的ケアを行って治療の継続を図るものです。また、認知症の患者さんは、認知症の行動・心理症状や意思疎通の困難さによって入院治療に支障をきたすことがあります。認知症の患者さんが、認知症症状の悪化をおこさず、身体疾患の治療を円滑に受けられるように、主治医や病棟看護師といっしょにケアの仕方や薬物の使い方などを検討するのが認知症ケアラウンドです。

- ◎ **精神科外来** 週1回、精神科外来を行います。主に入院患者さんの退院後の精神的ケアが目的であり、院外からの紹介は受け付けておりません。



◎こんなコト専門にしています

当院の入院患者さんは高齢者が多く、コンサルテーション・リエゾンや認知症ケアラウンドを担当する精神科医師が認知症・老年精神医学を専門としていることは、実情に即しているといえます。コンサルテーション・リエゾン、認知症ケアラウンドに関わるスタッフには、認知症に関する経験を積んだ認知症看護認定看護師、公認心理師がおり、業務をスムーズに進めることができます。

認知症看護認定看護師は、認知症ケアや行動・心理症状の緩和・予防について熟練した看護技術と知識を有する者として、日本看護協会の認定を受けた看護師です。

公認心理師は、心理学に関する専門家の国家資格であり、当院では主に心理検査や患者さん・ご家族の心理的ケアを行います。

◎こんなコト目指します

当院は、多くの診療科を抱える大規模総合病院です。これまでは、主に内科、外科、整形外科の入院患者さんの精神的ケアに当たってきました。今後は、それ以外の診療科とも連携を深め、すべての入院患者さんが快適な入院生活を送れるよう支援していきたいと考えています。

認知症疾患医療 センター

- 鎌田 寛 センター長
- 小倉 純 参与 ●松山 賢一 医長

東灘の認知症疾患診療の主要拠点として診療体制を充実



小倉 医師による認知症検査

◎こんなコトしています

認知症疾患医療センターは、認知症患者さんとそのご家族が住み慣れた地域で安心して生活ができるための支援の一つとして、都道府県や政令指定都市が指定する病院に設置するものです。当院は神戸市から認知症疾患医療センターの指定を受けており、認知症疾患の鑑別診断や専門医療相談など専門医療機能と、認知症に対応する地域連携を強め、地域の認知症患者さんやご家族をサポートする体制を充実させるための地域連携拠点機能の二つの役割を担います。

◎ もの忘れ外来

認知症の鑑別診断を行う「もの忘れ外来」を、週4日行います。原則として、かかりつけの先生の紹介状が必要です。また、神戸市の認知症診断助成制度の第2段階（精密検査）も行います。第1段階の認知症検診は甲南医療センターでは行っておりませんが、六甲アイランド甲南病院にて実施しております。

■外来担当表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午 前		小 倉	松 山	小 倉	松 山
午 後		小 倉		小 倉	

◎ 専門医療相談・日常生活支援相談

精神保健福祉士を中心としたスタッフが、認知症に関する相談を随時受け付けています。鑑別診断後も、介護保険の申請や社会資源の説明など必要なサポートを行います。

相談窓口／電話：078-857-8720 Fax:078-854-4139
受付時間／月曜～金曜 9:00～12:00 13:00～16:30(祝日・年末年始を除く)

- 開業医の先生、介護福祉関係者との事例検討会や研修会を行い、地域との連携を深めます。
- 患者さんやご家族を対象とした交流会を定期的に行います。



◎こんなコト専門にしています

もの忘れ外来の担当医2名は、ともに認知症診療に長年携わってきた医師で、ひとは精神科、もうひとは脳神経内科の医師です。診療科が異なることで、2つの異なった視点から患者さんを診察することが可能となり、鑑別診断を行う上で大変有益だと考えています。当院には、CT、MRI、脳血流SPECTなど、認知症の鑑別診断に必要な検査装置がすべてそろっています。また、正常圧水頭症、甲状腺機能低下症など、いわゆる治療可能な認知症が疑われる場合は、他科に依頼して迅速な診察、治療を受けることができます。このように当院では、大規模総合病院というメリットを生かして認知症診療を行っています。

◎こんなコト目指します

これからもうっそう認知症疾患医療センター業務の充実をはかり、患者さんやご家族の立場に立った活動を行っていききたいと考えております。

脳神経内科

●北村 重和 部長
●鎌田 寛 部長

専門医が神経や筋肉からつくる
様々な疾患や痛みに対し、
患者様それぞれに合わせた
治療を提供



北村 部長／鎌田 部長

◎こんなコトしています

甲南医療センターには日本神経学会の認定する神経内科専門医・指導医が2名在籍しています。患者様ひとりひとりの話をよく聴き、診察を行った上で、十分な説明を行い、ニーズにあった検査や治療を選択していきます。

◎ **外来診療** 当院では、脳神経内科外来を月曜日から金曜日までの毎日開いている（金曜日は紹介初診のみ）ほか、慢性頭痛診療に力を注いでおり、頭痛外来を火・木・金曜日に行っています（六甲アイランド甲南病院を含む）。

◎ **入院診療** 症状などより入院が必要と診断した場合は、患者様・ご家族様と話し合った上で、決めていただきます。南館1F（脳神経外科、耳鼻咽喉科、口腔外科との混合病棟）が担当病棟となります。

◎ **検 査** 必要に応じてMRI、CT、筋電図、脳波、頸動脈エコーなどの検査を受けていただきます。また、認知症やパーキンソン病の診断などで脳血流シンチ（SPECT）、MIBG心筋シンチ検査やDAT Scan（ダッド スキャン）検査も当院で行っています。

◎こんなコト専門にしています

中枢神経（大脳、小脳、脳幹、脊髄）、末梢神経、脳血流筋肉の器質的変化に基づく神経・脳疾患を診ます。主要症状として頭痛、めまい、言語障害、視覚障害、意識障害、認知機能障害、四肢や体幹のしびれや運動麻痺、歩行障害、ふらつき、振戦、けいれんなどがあります。対象疾患には血管障害、感染などの炎症、外傷、腫瘍、神経変性、免疫異常、中毒、栄養障害、代謝障害などによって引き起こされる様々な疾患が含まれます。



脳血管障害が
専門の鎌田 部長

頭痛、神経免疫
疾患が専門の
北村 部長



◎ **頭痛専門外来** 頭痛専門外来を開いており、頭痛専門医が担当しています。
対象：慢性頭痛（片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛、その他の一次性頭痛など）月に15日以上、3ヶ月以上続く慢性連日性頭痛の中には、慢性片頭痛や薬剤使用過多による頭痛（薬物乱用頭痛）などがあり、頭痛外来および入院での専門的治療が必要です。

◎ **小児の慢性頭痛** 同じ片頭痛でも成人とは「頭痛の顔つき」が違っていたり、起立性調節障害（OD）を合併していたりして、診断や治療が難しいこともあります。ODに伴う慢性頭痛の診断も積極的に行っていますし、OD専門家とも連携しています。また当院では、片頭痛関連の臨床試験（治験）を積極的に実施しています。



◎こんなコト目指します

今後スタッフの拡充を行い、診療の質をより充実させていきます。

小児科

●太田 國隆 副院長
●中野 加奈子 部長
他 常勤医7名

急性期の疾患を中心に
専門外来や高度な検査にも対応



太田 副院長

◎こんなコトしています

小児科病棟は甲南医療センターに移転し病床数も少し増えて25床となりました。小児病棟として眼科、耳鼻科、整形外科、形成外科など外科系の各診療科とも連携しながら治療を行います。

小児に多い肺炎や気管支喘息の入院治療、食物アレルギーの負荷試験なども従来どおりに行いますが、新しい病棟では個室も増えるため、隔離が必要な感染症についても十分受け入れができるようになりました。また、療養環境の整備のため、病棟保育士の配置も計画中です。



新病院の小児科外来

◎ **一般外来** （午前）紹介患者さんや初診の方の診察
（午後）専門外来として慢性疾患の治療やフォローアップを中心に診察
常時2～3診体制として、十分な診察ができるようにしました。

◎ **専門外来** **アレルギー外来**：気管支喘息やアトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎など
神経外来：てんかんや神経の病気
発達外来：言葉の遅れや発達の問題
専門医を中心にゆっくりと診察ができるように、予約制の外来になります。
その他：頭痛外来や夜尿症外来も開始予定です。



井淵 部長の外来診療

◎ **救急外来** 救急車や時間外の急患については甲南医療センターの救急外来で小児科医が診察
平日の夕方の時間帯や休日の午前中の紹介も小児科医が直接診る体制を作っています。
神戸市の二次救急小児輪番：これまでと同様に月7～10回担当

◎ **六甲アイランド甲南病院について** 六甲アイランド甲南病院でも小児科外来での診察はそのままです。従来とほぼ変わりありません。午前は急性期の病気を中心に診察し、午後はアレルギー外来や神経外来、予防接種などの専門外来の予約診療として今までどおり行います。脳波やMRIなどの鎮静が必要な検査や、より高度な検査については甲南医療センターで対応します。また、入院が必要な場合には、甲南医療センターでの入院になりますが、小児科医やスタッフは六甲アイランド甲南病院と同じなのでご安心ください。



谷口 部長



平瀬 部長

原 部長

◎こんなコト目指します

甲南医療センターは六甲アイランド甲南病院と連携しながら、小児のどんな相談にも対応できる医療を目指します。

外科

● 具 英成 院長 ● 藤田 敏忠 部長
● 塚本 好彦 統轄部長 ● 後藤 直大 部長
● 千堂 宏義 診療部長 ● 安田 貴志 部長 他 常勤医2名

(消化器外科・乳腺外科・呼吸器外科)

低侵襲手術から高難度手術まで最善の外科治療を実現

消化器外科

千堂 部長による手術

◎こんなコトしています

内視鏡やロボット手術の普及により近年、がんを始めとする多くの病気の診断や治療においては、より早期に発見し、身体への負担がより少ない治療を目指すようになっていきます。甲南医療センターの外科は2017年1月からチーム編成を一新し、胃・大腸などの上部・下部消化管領域や肝臓・胆道・膵臓などの肝・胆・膵領域において確実かつ最新の技術を備えた経験豊かな外科医がそろっています。また、常日頃よりがん診療ガイドラインに準拠した形で消化器内科、腫瘍内科、放射線科、病理診断科と密に連携をとり、横断的な診療を行っております。低侵襲手術から高難度手術までチーム一丸となって患者の皆様に応じた最善の外科治療を行い、心技一体で提供いたします。私たちはいつも患者様と相談しながら患者様とともに治療を行うことを心がけ、暖かい心で今後とも安全で優れた外科治療をお約束いたします。

◎こんなコト専門にしています

・食道・胃腸疾患



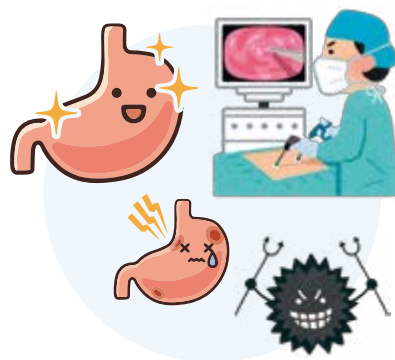
安田 部長による腹腔鏡下 胃がん手術

◎食道がん

食道がんに対する手術を中心にを行っています。食道手術は他の消化管手術と違って、やや特殊性のある高度な技術が必要であるとされます。日本食道学会はそのような技量を持つ外科医を食道外科専門医として認定していますが、2019年6月時点でこの兵庫県内にはわずか12人しか認定されていません。そのうち1人の専門医が当院に在籍し治療を行っています。抗がん剤と放射線を組み合わせる治療も有力な治療方法となり得ますので、患者様の状態に応じた最適な治療方針を患者様やそのご家族と共に選択するようにしています。胸部操作は胸腔鏡を用いて実施しており、右側の肋骨の間に5～6箇所のごく小さな傷跡が残るだけです。また、腹部操作にも腹腔鏡を補助的に使用しており、患者様の負担を少しでも軽減できるように配慮しています。

◎胃がん

胃がんに対する手術を中心として診療を行っています。早期胃がんや進行胃がんを含めて、現在ではほとんどの患者様に低侵襲な腹腔鏡下胃切除術を、日本内視鏡外科学会技術認定医を中心として積極的に行っています。近年増加傾向にある食道胃接合部領域のがんに対しても、腹腔鏡や胸腔鏡下での手術を選択しています。一方、高度進行がんに対しては、消化器内科や腫瘍内科との綿密な連携の下で、必要に応じて他臓器合併切除などの拡大手術を行い、化学療法を併用した集学的治療を行っています。以上のように胃領域の手術方法も最近では多岐に選択肢が広がっています。お一人お一人の患者様に最善な手術治療を安全に提供させていただくことが私たちの使命であると考えています。



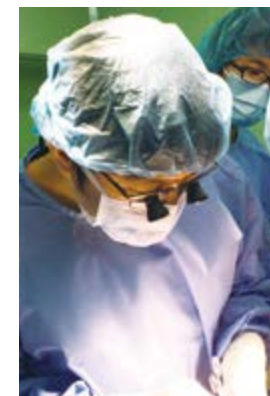
◎大腸がん

胃がん手術と同様、ほとんどの患者様に低侵襲な腹腔鏡下大腸切除術を日本内視鏡外科学会技術認定医を中心として積極的に行っています。根治性および排便機能・排尿機能・性機能といった様々な機能の温存を重視した手術を行っております。さらに、根治切除不能大腸がん、再発進行大腸がんに対しても患者様お一人お一人の病態に合った治療法を消化器内科、腫瘍内科、放射線科と患者様と一緒に相談し、抗がん剤治療や放射線治療などを組み合わせた集学的な治療を行っております。また、人工肛門に関しては専門看護師(WOCナース)が患者様の生活支援をきめ細く行っておりますのでお気軽にご相談ください。

・肝胆膵疾患

当院では確実・最新の技術を備えた経験豊かな肝・胆・膵領域を専門とする肝胆膵外科高度技能専門医・指導医がそろっています。適応のある症例に対しては患者様の身体的負担を抑え、回復の早い低侵襲な腹腔鏡下での肝・膵切除術を積極的に行い、また、他臓器合併切除、血管合併切除・血行再建などを必要とするような高難度手術まで様々な手術を行っており、チーム一丸となって最善の外科手術を行っています。

◎肝細胞がん 肝細胞がんに対する治療は手術、ラジオ波焼灼療法(RFA)、肝動脈化学塞栓療法(TACE)を中心とし、病状によっては分子標的薬による薬物療法、放射線療法などを組み合わせた集学的な治療を行います。当院の外科手術は安全・確実な手技・手法で様々な肝切除術を行い、低侵襲な腹腔鏡手術から高難度手術まで幅広く行っております。



後藤 部長による膵がん手術

◎膵臓がん、胆道がん(胆嚢がん、胆管がん、乳頭部がん)



千堂 部長による肝がん手術

胆膵疾患においても胆道学会指導医および膵臓学会指導医を中心に豊富な経験に裏付けられた専門性の高い診療を行っており、常に安全・安心・良質な医療が提供できるよう心がけています。一般的に胆膵疾患の手術は難易度が高く、侵襲の比較的大きい手術が多く、繊細で高度な技術を要します。また、他のがんと同様、良性あるいは低悪性膵疾患に対しては腹腔鏡手術を中心とした低侵襲治療も積極的に導入しています。胆膵疾患の術前診断は複雑かつ重要で、手術方法にも影響します。当院では最新の器具を導入し、高度な技術をもった専門医によって検査・処置・診断・手術に至るまで最高の医療が提供できるよう心がけています。

・その他

消化管間質腫瘍(GIST)などに代表される胃粘膜下腫瘍に対する手術では、消化器内科および病理診断科による確実かつ正確な診断により手術が必要と判断されましたら、消化器外科と消化器内科が腹腔鏡内視鏡合同手術(LECS)を協力して行い、患者様の身体的負担を最小限に抑えた治療を提供しています。

◎消化管穿孔・急性腹症・腹膜炎(胃十二指腸潰瘍穿孔、
その他消化管穿孔、胆石症、腸間膜虚血、腸管壊死、虫垂炎、など)
24時間365日、緊急手術に対応



乳腺外科

●宮下 勝 参事

乳腺専門医が多岐にわたる専門性の高い治療を実施



乳腺疾患を専門とする宮下 医師

◎こんなコトしています

乳がんの検査はマンモグラフィと乳房超音波検査にて行っておりますが、今回、新病院の稼動する2019年9月下旬から乳房を3次元撮影できるトモシンセシス技術を搭載したマンモグラフィ装置が導入され、より精度の高い検査ができるようになりました。乳がんの診断では通常、細胞診や組織採取（針生検）を行っています。診断が困難な場合にはより多くの組織採取ができるマンモトーム生検を行う場合があります。また新病院では乳がんの広がりに対する検査としてMRI、転移の検査としてCTを行います。いずれの装置も1台から2台に増加いたします。また進行がんや転移が疑われる患者さんではPET-CTを行う事ができます。

◎こんなコト専門にしています

◎手術 近年は乳房温存手術と乳房全切除術が主流となっています。腋窩リンパ節に対しては当院では現在まで行ってきた蛍光色素法を用いた数個のリンパ節のみを摘出する方法でセンチネルリンパ節生検を行っており、腋窩郭清を省略する症例も増加しています。センチネルリンパ節や乳腺断端は手術中に病理専門医による迅速病理検査を行い、がんの取り残しがないか、確認しています。

◎乳房再建 乳がんの範囲が広い場合には乳腺全切除術を行いますが、失った乳房をもう一度作る乳房再建手術も増加しています。当院は日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会の乳房再建実施施設認定を受けており、形成外科と連携して乳がん手術と同時に乳房再建手術が可能となっております。

◎薬物療法 進行乳がんの場合や、がんが大きいかでも温存術を希望される場合には手術前に化学療法（抗がん剤）を行います。手術後には、乳がんのタイプや腋窩リンパ節転移の数などの病理結果をふまえて、一人ひとりに合う治療を化学療法、内分泌療法、分子標的治療薬から選択します。腫瘍内科、専門・認定看護師、薬剤師との連携のもとに乳がんの化学療法は化学療法センターで行っております。

◎放射線治療 乳房温存手術を行った方や一部の乳房全切除術の患者さんでは、術後の再発を予防するために放射線治療が必要となってきます。また転移した乳がんでも症状緩和の目的で放射線治療を行う場合がありますが、当院では神戸低侵襲がん治療センターと連携して放射線治療を行っています。

◎緩和医療 乳がんの再発で、痛みや苦痛を伴うような症状、息苦しさなどを認める場合には、乳腺外科の治療と同時に緩和医療内科とも連携して、患者さんの苦痛と感じる症状を軽くすることを目指します。

乳がん治療は多岐にわたる選択肢があり、また、多くの分野の方がかかわる領域でもあります。多くの職種で構成する専門のスタッフが役割を果たしながら、心をひとつにして患者さんが安心して治療を受けられるようにサポートしていきます。

◎こんなコト目指します

診断の時には必要にあわせて専門・認定看護師が同席し、治療に向けて準備ができるようにサポートします。他にも外来・病棟・手術室・化学療法室の看護師と各専門職が、患者さんをサポートさせていただきます。患者サポートセンターの相談窓口で治療を受けながら困ったこと等に対応させていただきます。

呼吸器外科

●南 和宏 医長

胸部領域における様々な疾患に対応

南 医長



◎こんなコトしています

当科は、2019年10月の甲南医療センター開院に伴い新たに設置された診療科です。胸部領域のあらゆる疾患に対して、神戸大学医学部附属病院 呼吸器外科と密に連携しながら患者様に最善の治療を提供させていただきます。

◎こんなコト専門にしています

主要な疾患 ●肺がん、転移性肺腫瘍 ●縦隔腫瘍（胸腺腫、胸腺癌、奇形腫、神経鞘腫 など）
●嚢胞性疾患（自然気胸、続発性気胸、巨大肺嚢胞 など）
●炎症性疾患（膿胸、肺真菌症 など）

◎肺がん 肺に生じる悪性腫瘍です。喫煙者に多いですが、非喫煙者にも生じます。日本において、悪性腫瘍による死因の第1位となっています。罹患者も年々増加しており、早期発見・早期治療が重要です。

症 状 咳、血痰、呼吸困難、胸痛などを呈しますが、無症状で偶発的に発見されることも多いです。

検 査 胸部レントゲンや胸部CTで肺がんを疑う影が認められた場合、気管支鏡検査やCTガイド下生検で組織診断を行います。

治 療 初期の段階では、外科的治療を行うことで根治を目指すことができます。進行している場合は、手術だけでなく抗がん剤や放射線療法を組み合わせた集学的治療が必要となります。



肺がん手術中の胸腔内写真

◎転移性肺腫瘍 肺以外の臓器に生じた悪性腫瘍が、血流に乗って肺で新たな病巣をつくることで生じます。消化器領域の悪性腫瘍や婦人科領域の悪性腫瘍が原因のことが多いです。可能な限り外科的に切除を行うことで、予後の改善が期待できます。

◎縦隔腫瘍 縦隔は左右の肺に囲まれた空間で、心臓・食道・気管・大血管などが存在しています。この縦隔内に生じる腫瘍を縦隔腫瘍といい、胸腺腫、胸腺がん、奇形腫、神経鞘腫などが代表例です。胸部画像で縦隔腫瘍を疑った場合は、基本的には外科的切除が第一選択となります。

◎気 胸 肺は吸った空気をためてガス交換を行う臓器です。肺に穴があくことで、空気が漏れ、肺が虚脱してしまう状態を気胸といいます。原因としては、肺表面に「ブラ」という嚢胞ができ、それが破れることによるものが多いです。気胸に対して、まずは胸腔内にドレーン（管）を入れて脱気することで肺の膨張を促します。肺からの空気漏れが止まらない場合は、手術を行います。

◎膿 胸 胸腔内に膿が溜まった状態です。細菌感染によるものが多く、胸腔ドレナージと抗生剤投与が必要となります。外科的に胸腔内の膿を除去し、胸腔内を洗浄することで早期の治療が期待できます。

◎こんなコト目指します

甲南医療センターの外科では、神戸大学病院・地域の医療機関とも密に連携し、患者様に質の高い医療を提供致します。緊急手術を含めた救急診療も常時行っており、夜間も外科チームがオンコール体制を整え、24時間365日患者様を受け入れております。

また、セカンドオピニオンも積極的に受け入れておりますので、お気軽にご相談下さい。

整形外科

●笠原 孝一 診療部長
●牧野 健 診療部長
●高橋 完靖 部長 他 常勤医5名

様々な運動器疾患に、
外科的・保守的治療を展開

高橋 部長による
関節鏡下腱板修復術

◎こんなコトしています

整形外科という診療科は、小児から高齢者までの幅広い年齢層で、首から足先までの骨・関節・脊髄・神経・腱・靱帯・筋肉などの運動器と言われる器官に問題を抱える患者さんの治療を担当する診療科です。加齢に伴う脊椎・骨・関節疾患、子供から高齢者までの外傷、スポーツ選手のスポーツ外傷など、整形外科が治療を担当する領域はとても広いと言えます。また現代の超高齢社会においては当然の如く、高齢者運動器疾患が増加の一途を辿っており、整形外科の需要は益々増加しています。

◎こんなコト専門にしています

当科は、神戸大学整形外科の関連施設であり、リハビリテーションを含めた保存的な治療はもちろんのこと、脊椎・脊髄の手術、人工関節置換術、スポーツ外傷、障害などに対する関節鏡を用いた手術、四肢外傷に対する最新かつ低侵襲な手術、マイクロサージェリーなど、様々な外科的治療を行っています。また骨粗鬆症に対しては、地域の開業医の先生方とも連携し、二次骨折予防目的に、積極的に治療介入を行っています。

●脊椎(頸椎、胸椎、腰椎)疾患

椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、靱帯骨化症、脊髄症

●股関節疾患

変形性股関節症、大腿骨頭壊死症、臼蓋形成不全症、股関節唇損傷

●肩関節疾患

腱板断裂、反復性肩関節脱臼、関節唇損傷に対する関節鏡下手術
リバーズ型人工肩関節を含めた人工肩関節置換術
肩関節拘縮に対する腕神経叢ブロックを用いた非観血的授動術

●肘関節疾患

離断性骨軟骨炎、変形性肘関節症、上腕骨外上顆炎に対する関節鏡下手術、
関節リウマチに対する人工肘関節置換術、肘部管症候群

●手外科疾患

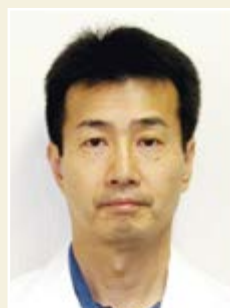
橈骨遠位端骨折をはじめとする骨折、腱・靱帯損傷に対する治療
腱鞘炎、手根管症候群、デュブイトラン拘縮(手術およびコラゲナーゼ注射)

●外傷性疾患

大腿骨近位部骨折をはじめとする四肢の骨折観血的手術
小児の骨折に対する保存加療や手術加療

●膝関節疾患

変形性膝関節症、関節リウマチ、スポーツ外傷などによる
半月板損傷・前十字靱帯損傷等



関節・脊椎脊髄疾患を
専門とする笠原 部長

◎こんなコト目指します

2019年10月からは、甲南病院、六甲アイランド甲南病院双方の整形外科医に加えて、さらにスタッフを増員し、甲南医療センター整形外科として、今まで以上に充実した体制で、さらに多くの疾患に対応し、質の高い診療を行って参ります。さらに手術後のリハビリテーションに時間を要する場合には、六甲アイランド甲南病院と連携して、行ってまいります。

産婦人科

●森田 宏紀 副院長
他 常勤医5名

地域の周産期医療を支えると共に
幅広く腹腔鏡手術・
悪性腫瘍手術にも取り組んでいます



◎こんなコトしています

産婦人科は4年間にわたるブランクの後再開しましたが、産科と婦人科両者をバランス良く診療しています。実際、神戸市内でこのような市中病院は少なく、魅力的な診療内容となっています。産婦人科は周産期、婦人科腫瘍、生殖医療、女性医学の4分野に大別されますが、当産婦人科には専門色の強い生殖医療以外の3分野の専門医が在籍しており、常に最新の診療を提供出来る様に研鑽しております。また手術としては、腹腔鏡手術や悪性腫瘍手術にも力を入れております。これらの分野の専門医、技術認定医を習得出来る環境を整備しております。

妊婦外来を受診する職員



◎こんなコト専門にしています

◎産科：兵庫県の周産期システムにおける地域周産期センター協力病院として、地域の周産期医療の一翼を担っています。小児科との取り決めで妊娠35週以降の分娩取り扱いになりますが、切迫早産症例、内科合併症症例などを受け入れています。日本周産期新生児学会専門医が多数おり周産期医療のエキスパートとして取り組んでいます。普通分娩では妊婦さんが総合病院として安心して出産が出来て、しかも産後の美味しい食事やリラクゼーショントリートメントなど満足出来る取り組みにも気を配っています。

◎婦人科： 良性疾患から悪性腫瘍まで幅広く取り組んでいます。子宮筋腫や子宮内膜症などの良性疾患に対する手術は可能な限り腹腔鏡手術を取り入れています。日本産婦人科内視鏡学会技術認定医が在籍し、レベルの高い腹腔鏡手術を行なっています。また、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌などの悪性腫瘍手術、化学療法も行なっています。日本婦人科腫瘍学会専門医が在籍しガイドラインに沿った最新治療を行なっています。

山崎 医長による腹腔鏡手術



◎こんなコト目指します

3年間六甲アイランド甲南病院で積んできた実績を、新病院の最新の設備と恵まれた環境で発展させて、さらに地域医療のお役に立ちたいと思います。産科部門では新病院のメリットを生かして、満足できる出産の提供を進めていきます。また婦人科部門では当科が得意としている内視鏡手術、婦人科腫瘍診療を融合し、悪性腫瘍内視鏡手術やさらにはロボット支援手術にも取り組みたいと思います。

高い診療レベルを維持し地域医療に貢献し、学生、研修医や産婦人科医教育や修練にも力を入れていきたいです。

形成外科（創傷センター）

●芝岡 美枝 部長 ●木村 健作 医長 他 常勤医1名

外観の治療を通じて患者さんの生活の質を向上

◎こんなコトしています

形成外科は簡単に説明すると「目に見える部分を良くする外科」です。

他の診療科が臓器別に細分化され、『機能回復』を主眼に治療を行うのに対し、形成外科は見た目に関わる事なら、頭のてっぺんから足先まで、老若男女が治療対象となり、『機能を最大限温存しつつ、外観に配慮した治療』を行います。外観の治療を通じて、患者さんの生活の質（QOL）を向上させることがわれわれ形成外科医のゴールとなります。当科は日本形成外科学会の認定施設、日本乳房オンコプラスチック学会の乳房再建に関する実施施設を取得しています。

- ◎診療方針 ●芦屋～神戸東地区の中核病院として、外傷および緊急入院依頼を積極的に受け入れ
- 治療方法に複数の選択肢がある場合には、患者さんの希望や背景を考慮し、最適な方法を共に検討した上で選択
 - 他の診療科との横のつながりを大切にし、よりレベルの高い医療の提供
 - 医師以外の理学療法士や義肢装具士など多職種が有機的に連携することで質の高い創傷診療を提供

◎こんなコト専門にしています

形成外科で取り扱う疾患は多岐にわたり、代表的な疾患は以下の通りです。

- 皮膚腫瘍/皮下・軟部腫瘍 ●外傷（やけどや手足、顔面のけが）
- こどもの外科（手足や耳の奇形、うまれつきの眼瞼下垂症、臍ヘルニア（いわゆるでべそ）
- ケロイド、きずあとの外科（体質によるケロイドや、ケガややけど、手術痕のひきつれなど）
- 再建外科（乳癌や頭頸部腫瘍切除後の再建、外傷による皮膚・軟部組織欠損に対する再建）
- 難治性下肢潰瘍、とこすれ
- その他 変性疾患 ▶まぶたの疾患（眼瞼下垂症、さか睫毛、老人性眼瞼内反/外反症etc.）
 - ▶顔面神経麻痺の後遺症による顔面の左右非対称に対する治療
 - ▶下肢静脈瘤 ▶リンパ浮腫



足背レベルでの皮膚灌流圧を測定しているところ
創の治癒が期待できるか、
血行再建が必要かの判定に用いる



▲高気圧酸素治療装置

◎こんなコト目指します

創傷センターを併設するにあたり、**高気圧酸素治療装置**を導入いたしました。

高気圧酸素治療とは高い気圧の中で高濃度の酸素を吸入する事で、通常より多くの酸素を血中に取り込むことができ、体の隅々まで酸素を届けることができます。低酸素による症状や、感染、浮腫などに変大効果があり、形成外科/創傷センターでは主に治りにくいキズの治療や外傷などに活用します。

適応となる代表疾患と、診療科は以下のとおりです。治療にはまず、当該診療科でご相談ください。

形成外科・整形外科	●重症軟部組織感染症(ガス壊疽、壊死性筋膜炎) ●重症の熱傷又は凍傷 ●難治性潰瘍(感染、虚血、放射線障害) ●骨髓炎 ●コンパートメント症候群 ●広汎挫傷、圧挫傷 など		
脳外科・脳神経内科	●頭蓋内膿瘍 ●重症頭部外傷後若しくは開頭術後の意識障害又は脳浮腫 ●低酸素脳症 ●脳梗塞、脊髄神経疾患		
循環器内科	●急性末梢血管障害	眼 科	●網膜動脈閉塞症
消化器外科	●腸閉塞	耳鼻科	●突発性難聴

治療中は専用の治療着に着替えてタンクの中で90分程度寝て過ごしていただきます。治療中はテレビを視聴したりして、リラックスしてお過ごしいただきます。患者さんの症状や疾患によって異なりますが1日1回の治療を複数回（10～30回程度）繰り返します。

耳鼻咽喉科

●後藤 友佳子 診療部長
●小池 雪絵 医長
●赤澤 亜由 医長 他 常勤医1名

小児から高齢者に至る 様々な耳鼻科疾患に対し、 細やかで丁寧な診療を実施

後藤 部長、
赤澤 医長による
鼓室形成術

◎こんなコトしています

常勤医師は部長1名・医長2名の女医3名です。悪性腫瘍以外の耳鼻咽喉科手術全般を行い、急性炎症や突発性難聴・顔面神経麻痺に対する点滴などの救急入院もお受けしています。診療所から紹介されて、当科で精査・治療・手術を受けられた患者さまが、次からはお近くの診療所での治療に戻れるようにすることが、私たちの役割と考えています。手術入院は短い日程で済むように外来で術前検査を済ませ、入院中もクリニカルパスを使用しています。

外来は何でも相談できる雰囲気을大切にしています。できるだけご本人の希望にそって、痛みや恐怖感の少ない検査・治療を心がけています。

◎こんなコト専門にしています



小池 医長によるアデノイド切除術

部長の専門である中耳手術（慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎に対する鼓室形成術など）は従来の手術用顕微鏡と共に中耳内視鏡を導入し、さらに丁寧な手術を目指しています。鼓膜形成術などでは日帰り手術や1泊入院も行っています。副鼻腔炎などの鼻手術はほとんどが内視鏡による経鼻的手術です。当院ではナビゲーションシステムも導入し、より安全な手術を目指しています。

その他咽喉頭、頸部の手術に関しても豊富な実績があり積極的に行っています。

幼児期は中耳炎や副鼻腔炎など耳鼻科疾患が多く、小児耳鼻咽喉科は女医である私たちが得意とする重要な分野です。滲出性中耳炎の鼓膜チューブ留置術や、睡眠時無呼吸やいびきに対する口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術などは術後劇的に症状が改善することも多く、是非ご相談ください。

ことばがなかなか出ない、発音がおかしいなどことばの発育の問題でお悩みではありませんか？周囲の人たちとのことばのやりとりで言語は発達していきます。積極的に話しかけているのに、ことばが出にくいなど気になる場合は、耳鼻咽喉科で難聴がないか、舌や口の中に問題がないか診察をする必要があります。当科には聴力検査やことばのリハビリを行う専属の言語聴覚士がいて、小児も含めた様々な聴力検査やことばの訓練などを担当しています。お悩みの場合は是非ご相談下さい。

◎こんなコト目指します

新病院では小児難聴のための聴力検査室や機器を整備しました。今後小児難聴の診断・療育に向けた体制をさらに充実させていく予定です。また超高齢社会となり老年性難聴で補聴器の需要も高まっています。当科では非常勤医師の濱本由記子医師が補聴器外来を行っています。補聴器でお悩みの場合は是非ご相談ください。

言語聴覚士による言葉の訓練



眼科 (アイセンター)

●石橋 一樹 診療部長

●宇津 永遠 医長 他 常勤医3名

増員、新たに医療機器を導入 アイセンターへと変わり、入院・外来診療を拡充

甲南医療センターへのリニューアルにあわせて眼科は**アイセンター**へと名称が変わります。石橋 部長による外来診療
これからも近隣の医療機関の先生方とも連携を深めて地域医療に貢献する地域密着型のアイセンターを目指します。

◎こんなコトしています

常勤医師5名、常勤視能訓練士6名、医療クラーク、外来看護師のスタッフ体制となっています。甲南医療センターだけでなく六甲アイランド甲南病院での眼科診療もアイセンターから医療スタッフを派遣して行っています。

◎外来診療室

新眼科外来は広いとはいいますが機能と効率向上のためにアイデアを凝らしたレイアウトになっています。診療室は2診制から3診制となり、新たな医療機器も導入しました。前眼部OCTは角膜や水晶体などの断層写真が撮影可能な機器です。光眼軸測定装置と併用することにより正確な眼内レンズの度数選択が可能になります。特に多焦点眼内レンズなどのプレミアム眼内レンズの適応についてより詳細な解析が期待されます。パターンスキャニングレーザーは従来の網膜光凝固装置(レーザー)にくらべて凝固時の疼痛が少なく、短時間でのレーザー照射が可能になります。黄斑浮腫などへの閾値下光凝固機能も装備しています。



新病院では「アイセンター」と改名し、
広くなった眼科外来

◎病棟診療室

眼科病棟に設置した入院患者様専用の診療室です。病棟でも視力検査が可能になり白内障術翌日に検査のために外来まで移動していただく必要がなくなりました。新病棟からは神戸の街並みが見渡せますので術後の視力改善を実感していただけるものと考えます。

◎専用手術室

当科は年間1200～1500件の手術を実施していますがⅡ期工事後には念願の眼科専用の手術室が完成します。緊急疾患に対して即時対応可能な体制が整います。



石橋 部長による手術



◎こんなコト目指します

名称は変わりますが、従来の甲南病院眼科の良いところはそのまま残し、今まで通院いただいている患者様にも、これから来院される患者様にも、そして患者様を紹介いただく近隣の先生方にも信頼していただけるアイセンターを目指して尽力していきたいと考えています。

脳神経外科

●本岡 康彦 診療部長
●堀 達雄 医長
●松尾 和哉 医長

脳血管内治療専門医により 迅速で適切な治療を実現

◎こんなコトしています

本岡 部長、堀 医長による頸動脈内膜剥離術



◎ **脳の健康を守る** 脳は成長期を過ぎると年々老化していきます。また、脳の病気により後遺症が残ると、生活の質は低下し、家族にも介護などの大きな負担がかかります。生涯、健康な脳で生活することは極めて大切です。脳の病気を疑う際には直ちに精密検査を行い、遅滞なく適切な治療を行うために、私たち脳神経外科は急性期から慢性期まで切れ目のない(シームレスな)診療を行うシステムを備えております。

◎ **脳神経外科治療の概略** 脳神経外科治療の対象となる病変は、脳、脊髄、末梢神経と多岐にわたりますが、当院では主に**脳血管障害(脳卒中)**、**脳腫瘍**、**頭部外傷**、さらに**頭痛**や**物忘れ**などが対象となります。また、脳ドックや検診で発見された無症状の病変も対象となることがあります。必要に応じて、それらの治療や経過観察を行い、脳疾患の予防的診療にも重点を置いています。

◎ **より高度な医療のための診療連携について** 当院は日本脳神経外科学会により神戸大学医学部脳神経外科を基幹施設とする専門医研修プログラム関連施設に認定されており、診療連携を行っております。より高度な医療技術を要するご病気に対しては、地域連携室を介して適切にご紹介を差し上げるシステムを設けておりますので、遠慮なくご相談ください。

◎ **専門職種や他の診療科、地域医療施設との診療連携** 手術を要する患者さんのために、脳神経外科専門の手術室とスタッフを備えています。また、手術前後において適切な管理を集中治療室と連携して行っております。必要に応じて、発症後あるいは術後の早期から回復訓練を行うために、リハビリテーション室や地域連携室の専門スタッフと迅速かつ綿密に連携して診療を行っています。また、外科手術のみでなく、脳神経外科以外の専門医と診断治療に関する情報を交換し、最善の医療を提供する体制をとっております。さらに、東灘区を中心に広く地域のクリニックや介護施設、リハビリテーション病院と連絡しながら、あらゆる面で患者さまの健康を維持するための、継続的な診療を行っています。

◎こんなコト専門にしています

◎ **脳血管内治療について** ある種の脳血管病変に対して、従来の「切る」手術ではなく、「カテーテルを用いた」手術を行うことがあります。カテーテルは主に、脳血管を検査するために用いられてきました。これを応用して、**頸動脈狭窄症**や**脳動脈瘤**に対して、**カテーテルを経由してステント**や**コイル**などを病変へ導き、**治療**を行います。また、**脳梗塞急性期にはステント型の血栓除去デバイスで血栓を取り除きます**。脳血管内治療は皮膚を切る範囲は小さいのですが、メスを用いる手術と同様に、また同等に危険性があり、技術的にも専門性の高い特殊な技術が必要な治療方法です。脳血管内治療が、非常に安全で簡単という誤解をしないようお願いいたします。**当院では脳血管内治療専門医により迅速で適切な治療を受けていただくための体制を整えております。**



脳血管内治療を
専門とする松尾 医長

◎こんなコト目指します

◎ **安全で確実な脳神経外科手術のために** 手術の安全性と確実性を保つことは当然です。さらに、なるべく患者さんの体の負担を軽くし(低侵襲性)、傷が目立たなく(整容性)なるように心がけています。当院では手術指導医による手術技術の向上に努め、最新の診療機器を適切に用いて丁寧で繊細な手術を行うよう心がけています。さらに、手術治療成績の向上のために、種々の学会に参加して最新の治療の情報を得ています。また、手術の講習会などを通して、治療技術を高めるための研鑽を行っています。

歯科口腔外科

●古土井 春吾 部長
●齊藤 泉 医員
他 常勤歯科衛生士2名

周術期口腔機能管理に
尽力し、炎症性疾患や
口腔外科疾患に対応



◎こんなコトしています

新病院に新設された診察室

甲南医療センターのオープンに伴い、新しく開設される歯科口腔外科に着任させていただくことになりました、古土井 春吾(ふるどいしゅんご)と申します。私と齊藤 泉(さいとういずみ)歯科医師の2人体制でスタートさせていただきます。



古土井 部長 他、歯科口腔外科のスタッフ

私はこれまで神戸大学医学部附属病院歯科口腔外科で、20年以上にわたり口腔外科疾患全般(顎口腔領域に発生する腫瘍・顎骨骨折や歯の外傷・顎変形症・顎骨嚢胞・口腔粘膜疾患・顎関節症・埋伏智歯など)の診療に従事してまいりました。専門分野は口腔感染症で、顎口腔領域に生じる蜂窩織炎や難治性の顎骨骨髓炎などの炎症性疾患の治療に長年取り組んできました。



◎こんなコト専門にしています

甲南医療センター歯科口腔外科では、近隣の歯科医院や医療機関と密接に連携し、専門分野の炎症性疾患や口腔外科疾患全般に加え、抗凝固薬や抗血小板薬を内服中の患者さんや骨吸収抑制薬を投与されている患者さんの抜歯等にも対応させていただきます。また、院内の先生方と連携して、がんや心血管外科などの手術や治療を受けられる患者さんに対する周術期口腔機能管理に力を入れ、誤嚥性肺炎などの感染症や口腔粘膜炎の発症を抑制し、治療成績の向上に貢献したいと思います。さらに、2018年4月から気管挿管時の歯の保護を目的とした口腔内装置が保険適応となりましたので、手術前に当科へご紹介いただければ、歯の損傷や脱落を防止するプロテクターを作製させていただきます。



◎こんなコト目指します

甲南病院が甲南医療センターに生まれ変わるタイミングで、新病院で働く機会を与えていただいたことに歯科口腔外科スタッフ一同、大きな喜びを感じています。甲南医療センター歯科口腔外科が地域の皆様に信頼される診療科となるよう、真摯な態度で研鑽を積んでまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

泌尿器科

●田中 浩之 診療部長
●桃園 宏之 医長

東神戸地区の泌尿器科診療の要として
入院治療も可能な体制を構築

◎こんなコトしています

●泌尿器科は男性および女性の泌尿器(尿の排出を行う器官)の疾患と男性性器の疾患を対象とする医学の一分野です。
具体的には腎、副腎、腎盂、尿管、膀胱、尿道、前立腺、精囊、精巣、精巣上体、陰茎などの疾患を扱います。

田中 部長による膀胱電子スコープを使用した治療



●主な対象疾患は以下のようなものがあります

- ◎炎症性疾患:膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎、尿道炎、精巣上体炎
- ◎結 石:腎盂腎杯結石、尿管結石、膀胱結石
- ◎悪 性 腫 瘍:前立腺癌、腎癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、精巣癌、陰茎癌
- ◎機 能 障 害:神経因性膀胱、過活動膀胱、尿失禁
- ◎良 性 腫 瘍:前立腺肥大症、副腎腫瘍
- ◎外 傷:腎外傷、尿道損傷、性器外傷

●どのような症状がある時に泌尿器科を受診すればよいか

頻尿、排尿時痛、排尿困難、尿失禁、血尿などの症状があれば泌尿器科を受診してください。また、検診やかかりつけ医で泌尿器科受診を勧められた場合は当科受診をお願いします。

◎こんなコト専門にしています

当科は2017年4月に六甲アイランド甲南病院へ1名の泌尿器科専門医が赴任し、外来診療と手術を含めた入院治療を行ってきました。現在までに行ってきた主な手術、入院検査は以下の通りです。

- 経尿道的な膀胱癌切除術や前立腺肥大症の核出術、尿管ステント留置術などの内視鏡手術
- 腎癌や腎盂尿管癌の腹腔鏡手術(腎摘、腎部分切除、腎尿管全摘)
- 経直腸エコーガイド下前立腺針生検
- 経尿道的な膀胱結石や下部尿管結石の碎石術

これら入院治療の機能が甲南医療センターへすべて移行されます。さらに泌尿器科専門医が1名増員され、今後は2名体制で治療を行います。また、高性能の体外衝撃波結石破碎装置(ESWL)とホルミウムレーザー、軟性尿管鏡、3D腹腔鏡などが新規に導入されますので、今後は全尿路(腎・尿管・膀胱)の結石治療や前立腺のレーザー核出術などが可能となります。当科で治療できる疾患もさらに広がります。

体外衝撃波結石破碎装置(ESWL)▶



◎こんなコト目指します

甲南医療センターは東灘区で泌尿器科の入院治療を行う事ができる数少ない施設です。また、近年泌尿器科手術(特に膀胱癌、前立腺肥大症、尿路結石の内視鏡手術や悪性腫瘍の腹腔鏡手術、ロボット支援手術などの分野)は医療機器の進歩や手技の向上から、より安全で確実、低侵襲な治療が行えるようになってきました。当科は神戸市東部地区の尿路結石治療、泌尿器科癌治療、ロボット手術のセンターとなる事を目指し、今後もスタッフの増員と最新の医療機器導入を行う予定です。

皮膚科

●吉岡 晶子 部長
●高山 恵律子 医長

目に見える症状のストレスからの解放を第一に
様々な検査を実施、的確な治療を実施

◎こんなコトしています

高山 恵律子 医長／吉岡 晶子 部長

皮膚に認められる異常は様々で、かゆみや痛みを伴うこともあります。また、目に見えるため患者様のストレスは大きいと考えます。皮膚は心や体の状態によって影響を受けやすい臓器です。

当科では皮膚の症状から、全身の病気がないかどうかを常に考えながら診療を行っております。すぐに診断がつく疾患もありますが、必要に応じて血液検査、画像検査、パッチテストや皮膚テストなどのアレルギー検査、皮膚生検による病理組織学的検査などを行い、的確な診断に努めております。

◎こんなコト専門にしています

◎ 主要な疾患

- 湿疹・皮膚炎：アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎 など
- 蕁麻疹
- 帯状疱疹
- 感染性皮膚疾患：蜂窩織炎、水虫 など



●帯状疱疹



●ボーエン病
(皮膚癌の一種)



●粉 瘤

- 尋常性ざそう(ニキビ)
- 良性腫瘍：粉瘤・疣贅(イボ) など
- 悪性腫瘍
- 水疱症
- 陥入爪(巻き爪)



- 脱毛症 ●薬疹
- 褥そう(とこすれ) など



◎ 対応可能な検査・治療

皮膚疾患全般の診断と治療を行っています。

- 皮膚生検：病理組織学的所見で診断します。
- 良性・悪性皮膚腫瘍に対しては手術加療、液体窒素凍結療法などを選択します。
- 陥入爪(巻き爪)に対しては人工爪、ワイヤー法、フェノール法などを症状に合わせて行います。
- 接触皮膚炎や薬疹などの原因物質検索にパッチテスト、皮膚テストなどを行っています。
- 男性型脱毛症に対しての内服加療を行っています。(自費診療)
- 尋常性乾癬などに対するナローバンドUVBによる光線療法を行っています。
- 脱毛症に対する局所免疫療法(SADBE)を行っています。



吉岡 部長による皮膚生検



高山 医長による創傷処置

◎こんなコト目指します

それぞれの患者様に最も適した治療法を提案・選択して、満足していただけるように心がけております。地域の開業の先生方と連携し、入院や手術が必要な患者様を積極的に受け入れております。気になる症状がございましたら、遠慮なくご相談ください。

放射線科

●廣田 省三 IVRセンター長
●鈴木 加代 PETセンター長
●片山 直人 部長代理 他 常勤医2名

画像診断専門医による
迅速かつ正確な検査結果を提供し、
最善の治療へ貢献

◎こんなコトしています

廣田 IVRセンター長(中央)と放射線科スタッフ

放射線科は画像診断(X線撮影・CT・MR・核医学など)、IVR(Interventional Radiology:画像下治療)、放射線治療の3部門で成り立っています。当院は日本医学放射線学会、日本IVR学会、日本核医学会といった主要な放射線科関連学会の修練機関/教育病院として認定を受けており、5名の放射線科医による専門性の高い医療を提供します。

◎こんなコト専門にしています

◎ 画像診断

現代の医療では画像診断の役割は非常に大きく重要です。医療における画像診断機器は急速な進歩を遂げており、診療科や臓器別の専門を超えた横断的な知識が必要となっています。放射線科はこの要請に応える専門科として、患者様のCTやMRI等の大量の画像情報から病気の有無を判断し、病気があればどういう種類のものかを判断して、治療に必要な情報を患者様や主治医の先生に提供します。

また夜間・休日でも病院外のタブレット端末を用いて遠隔画像診断を行っており(SYNAPSE ZERO、富士フィルムメディカル®)、緊急の画像検査に対しても放射線科の画像診断専門医が24時間365日対応し、病気の見落としを予防するなど質の高い医療を提供します。その他、地域医療との連携についても力を入れて取り組んでいます。近隣の病院・クリニックから画像検査の依頼を受けて、病状に適した検査を選択・施行した上で、検査結果のレポートを迅速に提供しています。

◎ IVR(Interventional Radiology:画像下治療)

IVR(アイ・ブイ・アール)はインターベンショナル・ラジオロジー(Interventional Radiology)の略語で、日本語では「画像下治療」と訳されます。X線透視やCT、超音波などの画像診断機器を用いて、体内に細い管(カテーテル)や針を入れて病気を治す体の負担が少ない治療法です(詳細はIVRセンターの項目を参照下さい)。

当院では兵庫医科大学 放射線科の前主任教授である廣田省三先生の下でチーム医療に取り組み、患者様にやさしく、生活の質を重視し、かつ治療効果の高い治療を行っています。

◎ 放射線治療は神戸低侵襲がん医療センターと連携

放射線治療は主にがんなどの悪性腫瘍に対して放射線を照射し、腫瘍の縮小・消失や症状の緩和を図る治療法です。苦痛も少なく、病気の種類によっては手術に負けない治療成績が得られる場合や、完治する場合もあり、現代の医療では重要な治療法の一つです。当院ではポートアイランドの神戸低侵襲がん医療センターと提携しており、同センターの放射線治療科部長である馬屋原博先生が隔週に1度外来診療を行っています。



◎こんなコト目指します

甲南医療センターの開院に当たって、X線撮影やCT・MRIなど最新の画像診断機器が導入されます。これらの最新診断機器を駆使して、患者様にとって安全かつ質の高い医療を提供するよう努めていく所存です。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

IVRセンター

●廣田 省三 センター長
●片山 直人 医長

IVR-CTの導入により治療手技を
拡充、幅広い疾患にも対応

◎こんなコトしています

IVR(画像下治療)とはX線やCTなどの画像ガイド下に経皮的に治療を行う低侵襲治療です。治療法には腫瘍に対する塞栓術や血管狭窄を広げる血管拡張術などたくさんの治療手技があります。

甲南医療センターでは最新のIVR-CTと呼ばれるCTも撮影可能な血管撮影装置と循環器系の血管撮影装置の2室を備えています。腹部、循環器、脳神経系の血管撮影、カテーテルを用いた治療が行えます。放射線技師、看護師のチームで最高のチームを目指します。(循環器、脳神経の治療については各診療科の項目を参照)

廣田 センター長、片山 医長によるIVR治療



新病院のIVR-CT装置

◎こんなコト専門にしています

腹部領域を主として、IVRの全分野の治療を行っています。肝腫瘍、門脈圧亢進症、動脈瘤コイル塞栓術、血管奇形、CV、血管形成術、ラジオ波焼灼術、経皮生検・ドレナージなどを得意としています。特に門脈圧亢進症、肝腫瘍、肺動静脈奇形などは、日本でも最も多くの症例を経験しています。

2018年度は235例(●経動脈化学塞栓術:37例、●内臓動脈瘤コイル塞栓術:4例、●緊急IVR(出血例の止血):4例、●肝動注リザーバー埋め込み術:11例、●胃静脈瘤などに対するBRTO:4例、●中心静脈カテーテル挿入関連:100例、●透析シャントPTA:36例、●ラジオ波焼灼療法:4例、●CTガイド下生検/ドレナージ:26例など)に施行しました。

◎こんなコト目指します

IVR-CTが導入され、CT下穿刺が安全、確実かつ容易となり手技も増えると考えます。新病院になり急性期病院として救急例の増加や婦人科、泌尿器などの悪性疾患の対応などが考えられます。IVRの体制を整備して対応したいと思います。



PETセンター

●鈴木 加代 PETセンター長

東神戸地区では唯一の施設
阪神間のがん診療に貢献

新病院での
診療放射線技師による
PET検査

PETセンターとは?

核医学診療を行う部門です。大きく分けて、PET、SPECTの2種類の核医学検査を行います。

◎こんなコトしています

① PET検査 FDG-PET/CT検査:

FDGという薬剤を用いたPET/CT検査です。現在の保険適用疾患は早期胃癌を除く悪性腫瘍、心疾患(虚血性心疾患、心サルコイドーシス)、難治性部分てんかん、大型血管炎の4種類で、悪性腫瘍でのFDG-PET/CT検査が最も多く行われています。

FDGという薬剤はブドウ糖(グルコース)に18Fという放射性物質を結合させたもので、ブドウ糖と同じように体内の細胞を行き来する性質があります。このため細胞分裂が活発な悪性腫瘍や炎症細胞に集まりやすく、体内のブドウ糖代謝の状態をCTと重ね合わせた画像で見ることができます。病変の広がりを視覚的に把握することができるため、悪性腫瘍の病期診断、再発の有無の診断などで用いられ、がんの診療には欠かせない検査となりつつあります。また、がん検診としても利用できます。自費での検査になりますが、血縁者ががんが多いなど、がんが心配な方は、六甲アイランド甲南病院健診センターやかかりつけ医にお問い合わせください。



② SPECT検査

六甲アイランド甲南病院で行っていたSPECT検査は、今後は当院で施行します。当院ではCTを同時に撮像できる、SPECT/CTを導入します。

●脳血流シンチグラフィ ●脳受容体イメージング(ベンゾジアゼピン・ドパミントランスポータ)
●心臓交感神経イメージング ●心筋血流シンチグラフィ ●心臓脂脂肪酸代謝シンチグラフィ
他、下記のとおり各種シンチグラフィを施行可能です

◎肺換気・血流 ◎内分泌(甲状腺・副甲状腺・副腎皮質・副腎髄質) ◎骨
◎腎動態検査(レノグラフィ) ◎ソマトスタチン受容体 ◎唾液腺・肝・胆道・消化管出血 など



▲ PETの全体像

◎こんなコト目指します

PET検査は、神戸市内では現在4か所で稼働しており、当院が5か所目、東神戸地区では唯一の施設となります。地域の医療施設からのご紹介を通じて、阪神間のがん診療に貢献したいと思います。

また、神戸市では認知症診断助成制度が本年1月に開始されています。当院では第2段階の認知機能精密検査の一環として、脳血流SPECTや脳受容体シンチグラフィ、心筋受容体シンチグラフィを施行することができます。認知症への関心が増加している昨今、六甲アイランド甲南病院でのSPECT検査は数か月の検査待ちでご心配・ご迷惑をおかけしておりますが、今後は新しい機械でお待たせすることなく多数の検査を安全に行っていけるよう努めて参ります。丁寧な対応、安全な検査、高品質なレポート作成を心掛け、スタッフ一丸となって今後の診療にあたる所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



鈴木PETセンター長

麻酔科

●末原 知美 部長
●眞田 かなえ 部長 他 常勤医1名

知識・技術を日々研鑽し
「麻酔の質」の向上に尽力

◎こんなコトしています

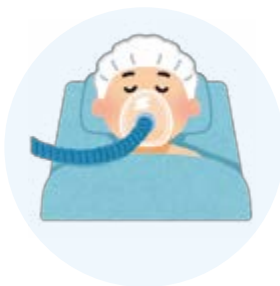
末原 部長による術中麻酔管理

「麻酔科」とはどういう科なのか？という疑問を持たれる方は多いかと思えます。「麻酔をする科」という答えはある意味正しいのですが、ある意味間違っています。ただ麻酔をしているだけではありません。私たちは、手術を受けられる患者さんの手術前・手術中・手術後(この期間をまとめて「周術期」と呼びます。)の全身状態を把握・分析し、更に麻酔という手段をもって安全に周術期を乗り越えられるよう管理しております。

手術前に患者さんの状態を外来やベッドサイドで把握し、患者さんやご家族そして主治医の要望を取り入れつつ患者さんに一番合った麻酔方法を選択し、その内容を説明します。私たちが普段行っている麻酔方法には、全身麻酔・脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・末梢神経ブロックなどが含まれております。これらを単独あるいは組み合わせて手術当日に麻酔をします。また、手術中は患者さんのそばから離れず状態を監視し、問題点に対して即座にかつ適切に対処することも私たちの仕事です。手術後も患者さんを診察し、意識や全身状態あるいは痛みの程度などを総合的に評価して、問題があれば解決するように努めます。周術期を適切に管理するには知識・技術そして経験を要し、そのために私たちは日々の臨床業務を通して研鑽を積んでおります。



末原 部長、酒巻 医員による術中・術後の全身状態管理



◎こんなコト専門にしています

手術麻酔全般を主に行っております。手術麻酔の基礎である全身・気道・疼痛などの管理を得意としているので、これらを生かして集中治療・ペインコントロール・救急といった分野にも随時対応しています。

◎こんなコト目指します

麻酔科は日本において戦後に成立した比較的新しい診療科です。麻酔無しで手術のストレスに耐えさせることは人体にとって非常に有害であり、不可能に近いことです。また、手術と麻酔を完全分業することで、よりスムーズに周術期を乗り越えることができます。こういった意義を見込まれて成立した麻酔科ですが、何十年の時を経て、知識・技術・薬剤・機器などの飛躍的な進歩に伴い、「麻酔の質」というものが求められるようになりました。つまり、患者さんが安全に周術期を乗り越えることは最早当然のこととなった現在において、適切な麻酔管理を受けることは、より快適に周術期を過ごせることに繋がる、ということに期待が寄せられています。

なお「麻酔の質」とは、“痛みや吐き気が無いように”や“術後すぐに目を醒まして家族と面会したい”、など患者さんによって思い描かれるものは異なりますし、異なっても当然と理解しております。今後とも私たちは、手術に臨まれる患者さんの不安や希望に対して誠実に耳を傾け、それにお応えできるよう最大限の努力をして参ります。

病理診断科

●宮下 勝 部長
●山崎 隆 医長

組織や細胞から得られた情報で
早期診断・治療に貢献

◎こんなコトしています

山崎 医長による病理診断

病理診断科の主な仕事は『病理診断』です。患者様の体より採取された病変の組織や細胞から、ガラス標本を作り、顕微鏡で観察、診断することです。最終診断として大きな役割を果たします。手術中に病理診断を下し、方針を決める『術中迅速診断』も大切な仕事の一つです。他には不幸にして亡くなられた患者様の病気の状態、診断及び治療効果等を判定する目的で行われる『病理解剖(剖検)』も重要な業務です。当科は日本病理学会認定登録施設になります。



新病院の病理部の様子

◎こんなコト専門にしています



▲バーチャルスライド作製装置

当科の特徴としては、バーチャルスライドシステム(以下VS)の導入があげられます。VSとは顕微鏡用プレパラート全体をデジタル画像として記録し、モニター上で観察する装置です。デジタルデータなので退色が無く、破損の心配もないので永久標本として保存することも可能です。また関連機関とのネットワークを利用することにより、遠隔からも画像を観察することができます。当院においても、顕微鏡がなくてもモニター上で、デジタル化した画像の観察が可能であるVSの利点を生かし、積極的に臨床医とのカンファレンスに利用しています。

さらに2019年秋から病理医が不在あるいは診断が困難な症例の場合等においても神戸大学病理部との連携により、遠隔病理診断が可能なシステムを構築し、運用を開始しています。

◎こんなコト目指します

2019年秋に新しく稼働を始めた病理検査室は、新たな検査機器等が導入され、引き続き正確で質の高い病理診断を提供していきます。具体的には、臓器の切り出し作業台にプッシュプル型換気装置の導入により、ホルマリン等の有害物質の換気対策を行い、自動染色装置の導入により、業務の効率化を目指します。また細胞診においては、全自動液状化検体細胞診標本作製装置(Thinprep® 5000)が導入されました。液状化検体細胞診(LBC)は従来での標本作製に比べて、標準化された標本の作製が可能となり、不適正標本の減少につながります。採取し保存しておいた検体を用いて、細胞診標本の再作製、HPVのタイピング検査、免疫染色等が追加可能になり、診断補助として非常に有用です。さらに病理検査業務支援システムの更新により、臨床側からの病理診断報告書の既読・未読の状況を確認できるようになり、病理診断報告書の確認漏れを防ぎます。



▲自動染色装置



▲全自動液状化検体細胞診標本作製装置
(Thinprep® 5000)

救急部

●高橋 徹也 統轄部長

“断らない救急”を実践し、
東神戸の中核病院として
救急医療を支える



甲南・六甲2病院をつなぐ専用救急車
マスコットキャラクターをプリントしています

◎こんなコトしています



高橋 部長

甲南病院、六甲アイランド甲南病院の救急部では、東灘区の中核病院として、断らない救急を理念とし、地域の皆様とともに歩んで参りました。

この度、甲南病院を拡張し、甲南医療センターに生まれ変わったのを期に、救急機能を甲南医療センターに集約致しました。医師の増員と体制の強化、診療科目の増設による受け入れ可能症例も広げ、これにより東灘・灘区管内を中心に近隣の救急搬送を積極的に受け入れて参ります。

救急搬送以外にも、急な体調不良などで、直接当院を受診される患者様にも、外来と連携しつつ、随時対応致します。また、近隣の医療機関の諸先生におかれましては、当院救急部は、患者様のご紹介に対しても、いつでも対応致します。

救急部では、まず受診された患者様の状態を診てトリアージ(緊急度判定)を行い、救急担当医(交代制)が初療を行います。診察・検査などを行い、当該疾患の専門医に連絡。入院治療や外来通院、経過観察などの方針を専門医が決定します。入院の場合も基本、各専門科での入院になり、引き続き各専門医による手術・治療を受けていただきます。

◎こんなコト 専門にしています

甲南医療センターで対応できる疾患はすべて救急部で対応いたします。

救急部の性格上、診察・検査の結果、当院では加療困難な疾患(心臓血管の手術が必要など)と診断がつく場合があります。その際は、近隣の対応可能な医療機関に連絡して、治療をお願いすることになります。



救急車停車スペースを大幅に拡充

◎こんなコト目指します

甲南医療センター救急部は、
近隣の皆様の急な疾患に対し、365日24時間
対応できるよう、今後も尽力します。



看護部門・ 診療技術部門紹介



看護部門

- ◎看護部ごあいさつ
- ◎看護部

診療技術部門

- ◎薬剤部
- ◎中央検査部
- ◎中央放射線部
- ◎中央臨床工学部
- ◎リハビリテーション部
- ◎栄養管理部
- ◎地域連携／患者サポートセンター

MINAMIちゃんとコーニャンズ

みなさま
よろしくお願
いいたします



看護部門を導く者として

多方面から甲南会が目指す質の高い看護を強化

◎ごあいさつ

歴史を「つなぐ」、そして看護を「つなぐ」

甲南医療センター 看護部長 堀口 美由紀

甲南病院は、昭和9年に設立され昭和から平成へ85年の歴史を地域の方と共に歩んでまいりました。そして、令和元年、その歴史を次の100年につなぐために、甲南医療センターとして生まれ変わり神戸東部地域の基幹病院となります。

医療においては、高度急性期から急性期、回復期、慢性期、そして終末期まで、甲南会でのバトンリレーがこれまで以上に強化されます。看護はさらに、病院から施設、そして在宅まで途切れることなくつながり地域住民を支えます。甲南医療センターは急性期治療の現場になりますが、これまで甲南病院の看護部が大切にしてきた「あたたかい看護」を忘れず、さらに「信頼される看護」を提供していきたいと思います。また、甲南会だけでなく地域の医療機関や看護・介護の連携を深め、地域の方が住み慣れた場所で、最期までその人らしく健康で暮らすことができる、そんな看護のバトンをつないでいきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



進化する甲南会を目指して

甲南医療センター K20看護担当部長 若狭 千草

甲南病院は、2017年から新病院建設のK20プロジェクトをスタートしました。甲南会のそれぞれの職員は、このプロジェクトに参加するという一大事業を経験し、各職場で理想の病院を作るためには、何ができるのかを真摯に考え、各ワーキンググループ等で検討を重ねてきました。

いよいよ、その成果の結集である甲南医療センターが新たな歴史の扉を開きます。六甲アイランド甲南病院との相互連携のもと、信頼され、愛される地域の中核病院として、さまざまな医療ニーズに対応できるよう努力してまいります。日本の医療環境が大きく変化するこの時代に、20年先、30年先を見据え、名実ともに、地域の皆様の期待を裏切らない医療人を育成し、地域の発展にも寄与できるよう邁進していく所存です。2022年のグラントオープンに向け、設備やハード面だけではなく、安心・安全な医療および医療の質が追求できる「進化する甲南会」を目指してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。



生まれ変わる六甲アイランド甲南病院

六甲アイランド甲南病院 看護部長 立部 巴



六甲アイランド甲南病院は、急性期病棟だけでなく回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟を持つ病院に生まれ変わります。甲南医療センターとの連携だけでなく、近隣の医療機関と連携しながら、脳血管疾患や大腿骨頸部骨折および心臓疾患など疾病に合ったリハビリテーションを充実させ、さまざまな活動能力を高めることでより生き活きとした生活を送っていただくお手伝いをいたします。看護部は入院早期から他職種とともに検討会を開き、最適なリハビリテーション計画を提案し実践します。各分野の専門家が協力し各自の立場から支援することで心身ともに回復した状態で自宅や社会に戻っていただくことを目標としています。

外来においては小児科・産婦人科をはじめ内科・循環器内科・耳鼻科ほか今までと同じ診療科を維持します。検査では一部甲南医療センターに移行しますが、CTやMRI、内視鏡検査などは継続します。もちろん健診センターも継続です。今までよりも多機能になった六甲アイランド甲南病院、地域の皆様に選ばれる病院を目指して行きたいと思いますので宜しくお願いします。

看護師採用活動

甲南医療センター 看護師採用センター 青木 節子

甲南医療センター開院に際し、これまで、看護師の就職において、甲南会の看護部を支えてくださった、看護系大学、看護専門学校、看護専攻科の先生方、職員の皆様に心よりお礼申し上げます。2006年の診療報酬の改訂で看護師配置「7対1」入院基本料が新設されるなど、看護師採用には、厳しい時代もありましたが、近年は、兵庫県下の看護系

大学が15校(全国248校)になるなど看護教育機関が充実してきたのに伴い、甲南会の看護師の採用も、数から質へとシフトしていています。

兵庫県下の大学、専門学校からは、毎年、院内合同就職説明会にご招待いただき、直接、学生さんに病院を説明する機会をいただいております。学生さんが、甲南会を選んでくださる理由の一番は、「実習時の自分の体験」「インターンシップの経験」です。甲南会での臨床経験が就職に結びついていることを嬉しく思います。2022年には、看護職員800人を超す法人になります。これからも、看護基礎教育機関の先生方のご支援をいただきながら、「甲南会に就職してよかった」と思えるような法人をつかっていきたいと思っています。



看護部

- 堀口 美由紀 部長
- 小西 由佳利 副部長
- 川崎 敬子 副部長
- 岡島 恵子 副部長
- 他 常勤看護師等367名

あたたかい温もりのある心で「つながる看護・介護」を実践

◎こんなコトしています

急患搬送

甲南会看護部では、これまでの長い歴史の中で患者さん一人ひとりの尊厳と人権を尊重し信頼される看護を提供することを目指してきました。2025年を目前に地域包括ケアシステムが進む中、病院だけでなく地域と繋がる看護の提供が求められます。甲南会には、それが実現できる環境があります。東灘区にある甲南医療センター・六甲アイランド甲南病院・老人介護保健施設・訪問介護ステーションで超急性期から急性期、慢性期・回復期そして在宅、緩和ケアでの看取りまで甲南会で「つながる医療」そして「つながる看護、介護」があります。そこには、「やりたい看護」を見つけ実践できる場所があり、個々の看護師の専門性や関心領域にあわせて働く場を選択することが可能です。さらに、甲南会の中でキャリアをつなぐ、スペシャリストになるための支援制度もあります。

◎甲南会のクリニカルラダー



学び続けられる環境として、臨床の場だけでなく教育機関として研修センターがあり、そこでの看護師教育は経験年数別やラダー別、役割別など年間計画を立て研修を行っています。特に、科学的根拠に基づいた看護実践が行える看護師を育成するために、高機能シミュレーターを使ったフィジカルアセスメント研修やシミュレーショントレーニングでは、専任の看護師や集中ケア認定看護師が講師となります。また、卒後2年目対象の『症状マネジメントモデル』を用いた事例の検討は、2006年から13年続いている甲南会看護部の特徴的な研修プログラムの一つです。

甲南会のクリニカルラダー

法人研修	●新人研修 ●フィジカルアセスメント研修(基礎編) ●基礎看護技術(OJT中心に)	●2年目研修 ●倫理研修 ●症状マネジメント研修 ●シミュレーション研修	●3年目研修 ●フィジカルアセスメント研修(中級編) ●看護研究 ●実施指導者研修 ●退院支援研修	●リーダー研修 ●フィジカルアセスメント研修(上級編) ●教育担当研修 ●高齢者と認知症疾患の理解 ●ナラティブ研修	●主任研修
	<IVナース教育プログラム> ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ3C	ステップ3R
向上実践研修力	●知っておきたい感染対策 ●乳がん診療と乳がん患者の看護	●感染管理 ●褥瘡予防ケア	●がん患者の症状マネジメントと看護ケア ●事例を通して腎不全と共に生きる患者さんを知ろう ●創傷管理		

そんな甲南会の医療・看護を支える看護支援センターには専門看護師・認定看護師が16名在籍しています。日々、各病院・施設での活動はもちろんですが、組織を横断して患者さんに対する直接ケアの実施、看護師の実践能力向上を目的にOJT、Off-JT研修を実施しています。まだまだ甲南会の中での活動が中心ですが、今後は地域での活動も強化していきたいと考えています。

甲南医療センター 看護支援センタースタッフ	六甲アイランド甲南病院 看護支援センタースタッフ
専門分野	専門分野
皮膚・排泄ケア認定看護師	認知症看護認定看護師
感染管理認定看護師	集中ケア認定看護師
透析看護認定看護師	慢性心不全看護認定看護師
緩和ケア認定看護師	慢性疾患看護専門看護師
乳がん看護認定看護師	
がん化学療法認定看護師	

◎こんなコト目指します

これから、医療はますます高度化し看護師に求められる役割も拡大してきます。急性期の医療および患者さん個々のニーズを捉えた確実な看護実践が行える看護師の育成が大きな課題です。しかし、それだけでなくこれまで甲南会が大切にしてきた「あたたかい温もりのある看護の心」を大切にしたいと思っています。

薬剤部

- 釋 昌子 部長
- 奥野 護 副部長
- 君羅 加奈恵 副部長

正確で安心安全な 医薬品情報を提供

- 開発 利江 部長代理
- 他 常勤薬剤師12名

◎こんなコトしています

薬剤部では、患者さんの安心安全で最適な薬物療法を提供するために、調剤、医薬品情報、がん化学療法、医薬品の安定供給、治験といった業務を行っています。病棟では患者さんやご家族の方に安心して服用してもらえうように、お薬の説明をしています。また、医師、看護師など医療関係者と連携をとり、お薬に関連した情報提供を行っています。さらに、院内の医療関係者と協力し、様々なチーム医療にも参加しています。

◎ 糖尿病チーム

糖尿病療養指導士の有資格者を中心に、患者様向けの糖尿病教室や、院内スタッフ向けの勉強会の講師、カンファレンスへの参加など院内横断的に活動しています。

◎ 感染制御チーム(ICT)

院内で起こるさまざまな感染症から患者さまや職員の安全を守るためにICT(Infection Control Team)において活動を行い、横断的に病院全体の感染対策活動に従事しています。

◎ がん化学療法

入院・外来共に抗がん剤の処方内容について投与量・投与間隔・副作用対策の薬の種類などの薬学的チェックを行います。投与当日にも検査値などのカルテ内容を確認した後、安全キャビネット内で混合調製を行います。また、化学療法を受けられる患者様の副作用・検査値等を確認し、化学療法がより安全に、より有効に実施されるように努めています。入院・外来ともに化学療法を受けている患者様やご家族に対し、安全に治療を受けて頂くために化学療法のスケジュールや副作用症状が出た場合の対処法などの説明を実施しています。

◎こんなコト目指します

- ◎人材育成 当院では薬学部の学生実務実習を受け入れ、未来の薬剤師育成に貢献しています。

お薬に関する質問はお気軽にどうぞ！

ミキシング



◎ 栄養サポートチーム(NST)

患者様の栄養状態の改善に努めることを目的に、患者様の状態に応じた輸液、経腸栄養剤の投与に関するサポートをNST(Nutrition Support Team)において行っています。

◎ 褥瘡チーム

褥瘡とは一般的には床ずれと言われるものです。一度できると治りにくいこともあるため、予防と対策が大切になります。当院では褥瘡対策を医師・看護師・管理栄養士・薬剤師がチームを組んでおり、チーム回診への同行や院内スタッフ向けの勉強会の講師などを担当しています。

調剤業務

中央検査部

精度の高い知識と技術で
検査結果を迅速に提供

- 福岡 恵子 診療技術部長
- 井上 徳行 技師長
- 清藤 美香 副技師長
- 下田 貴子 副技師長
- 他 常勤臨床検査技師24名
事務1名



患者照合機付昇降台での採血

◎こんなコトしています

中央検査部は、臨床診断の決定、治療効果の判定、経過観察などのために、先進医療施設に相応しい質の高い検査結果を迅速に提供できる体制で、患者さんが当院で診療を安心して受けていただけるよう役割を果たしてまいります。

◎ 採血・採尿自動総合受付機を導入

患者さんが診察券を差し込むだけで簡単に受付ができるようになりました。採血台は、患者照合機付昇降台5台体制となります。採血ブースはパーテーションで区切りプライバシー保護と安全に配慮しています。



◎ 緊急検査の充実

必要な検体検査（血液・尿・髄液など）情報を24時間提供できる体制となりました。



◎ 超音波検査の充実

超音波検査を専門とする技師と各科の医師により、病気の有無、性質、広がりなどを診断し、適切な治療方法の選択、決定のために必要な情報を提供します。



◎ チーム医療

感染対策チーム（ICT）、栄養サポートチーム（NST）への参加のほか、カテーテルアブレーション治療・冠動脈インターベンション治療・術中モニタリングなどの治療支援にも取り組んでいます。

◎ 院内感染対策

グラントオープンでは超高速核酸増幅技術による遺伝子解析検査の導入を予定しています。短時間での結核菌群のDNA検出など、早期診断で感染制御の観点を含めた治療戦略・院内感染対策に貢献します。



◎こんなコト目指します



患者診療に直結する検査の一つが『テクニック・ノウハウ・スキル』にすべて委ねられており、臨床検査技師がこれら実践的な知恵に磨きをかけていくことは責務です。しかし、これからの臨床検査技師は、知識と技術のみに頼っている時代ではありません。タスク・シフティング（業務移管）の推進が提唱され、臨床検査技師が検査室から病棟・外来・在宅へと向かう必要性が出てきました。より一層、患者さんの心に寄り添える検査を心掛け、「人とつながること」ができる臨床検査技師でありたいと思います。

中央放射線部

高機能で高精細な
診断装置の導入により
診断精度・効率が向上

- 甲山 精二 診療技術部長
- 月生 正信 技師長
- 佐野 剛士 副技師長
- 井本 正彦 副技師長
- 他 常勤診療放射線技師14名



診療放射線技師による造影検査

◎こんなコトしています

◎診断画像はお任せください

歴史ある甲南病院は、この10月に六甲アイランド甲南病院と統合再編し急性期病院として甲南医療センターに改名し、この大きな節目を迎えるにあたり、中央放射線部では設備およびスタッフの拡充を図ってまいりました。我々診療放射線技師は、医師が求める診断価値の高い画像を患者さんに提供することを責務とし、その画像は診断や治療方針の決定には必要不可欠となり、中央診療施設の要となる重要な部門であります。

◎装置が一新されました

最新医療に対応すべく設備の拡充として、放射性医薬品を用い機能評価が行えるPETセンターの開設、IVRセンターでは頭部、心臓、腹部領域を中心に血管造影検査や外科的手術を要しない血管内治療の対応を図り、また高機能で高精細な診断装置の導入により三次元的画像構築による診断支援や手術支援画像を提供することにより、診断の精度および効率が向上するものと考えております。



SPECT-CT装置



新病院のCT・MRI検査待合

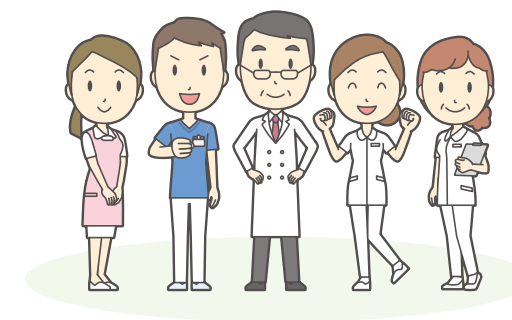
◎こんなコト目指します

◎地域の皆様へ

神戸市の東灘区を中心とした地域の皆様には、放射線機器の複数導入により待ち時間のない検査の早期実施を目指し、また患者さんの肉体的、精神的負担の低減を目的に、放射線被ばくの低減や検査時間の短縮を図るため、日々自己研鑽し認定制度や専門技師の取得に励んでいます。

◎心を込めた診療を心がけています

昨今、装置の大型化や検査の煩雑化により、患者さんから目が離れがちで、患者さんを置き去りにすることが危惧されますが、中央放射線部では、ホスピタリティを原点に、いかなる時も患者さんに寄り添うことを忘れず、患者さんを中心とした医師、他の職種間でのチーム医療に徹することも重点に掲げておりますので、安心して甲南医療センターへ受診ください。



中央臨床工学部

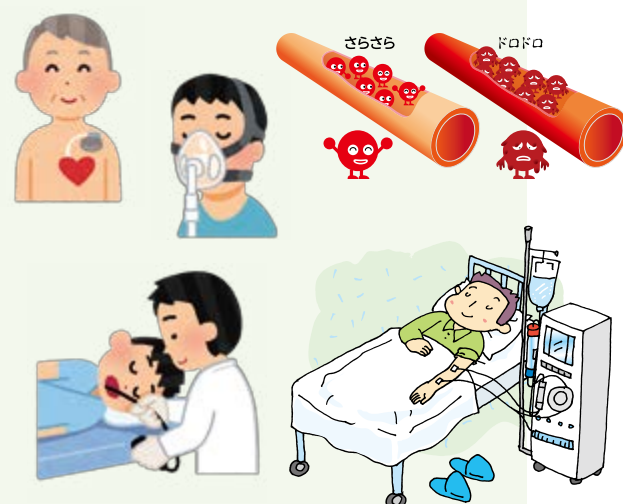
●灰原 博子 技士長
他 常勤臨床工学技士14名

経験豊富なスタッフが透析治療を支援

甲南医療センターとしてオープンに伴い、
血液浄化・腎センター臨床工学室から中央臨床工学部へ
名称を改め、横断的な診療支援部門として活動していきます。

臨床工学技士による透析治療

◎こんなコトしています



◎ 診療支援

- 血液浄化(透析・アフレスス) ●末梢血幹細胞採取
- 内視鏡 ●睡眠時無呼吸(SAS)外来 ●夜間PSG検査
- ペースメーカー外来 ●アブレーション等の不整脈治療
- IVR(心臓カテーテル検査)
- 高気圧酸素療法、OPE室、ICU機器管理業務

◎ 医療機器安全管理

- 新機種デモンストレーション ●勉強会開催
- トラブル解析 ●現場に対応した機器運用コンサル
- 安全情報の啓蒙 ●医療安全文化の育成の推進

学会研究発表、臨床実習の受け入れなどの人材育成

◎こんなコト目指します

急性期医療への転換に対応し、医師の診療応援を積極的に行なっていきます。大阪湾まで一望できる『天空の透析室』で新たな分野へ取り組んでいきます。

◎膠原病、潰瘍性大腸炎など難治性疾患についてもアフレスス療法が対象の症例は
医師と密にコンタクトし、提案

◎末梢血幹細胞採取、高気圧酸素療法などの新しい治療法の取り組み

◎IVRセンターの2室24時間救急対応を支援する為、
夜間休日における迅速な応援体制の整備

◎最新の人工呼吸器導入に伴い、呼吸器管理の
可能性を検討できる場として、多職種による
呼吸療法チーム(RST)の立ち上げの検討



主なる治療を最大限に生かすための補助療法は、これから可能性のある分野です。
関西圏でも実施できる病院は少なく、新甲南医療センターの強みになると考えています。

リハビリテーション部

早期の社会復帰に向けて、 多様なリハビリテーションで 幅広い疾患に対応

●内田 豊 技士長(OT)
●戒居 多希子 副技士長(ST)
●山本 健太 副技士長(PT)
他 常勤リハビリ専門技士23名
事務1名



◎こんなコトしています

新病院における理学療法士、作業療法士によるリハビリテーション

リハビリテーションセンターでは医師の処方のもと、患者さんのもつ運動機能の障害や日常生活活動障害、コミュニケーション障害、嚥下障害などの機能改善・回復を目的にリハビリを行います。発症直後や手術直後の急性期では、できるだけ早い



時期に身体機能を低下させないようにリハビリを開始することが大切ですが、急性期の患者さんは全身状態が不安定なことが多いため、命にかかわることも起きかねません。当院では早期よりリハビリを実施するにあたり、医師・看護師・コメディカル部門など、患者さんに関わる多職種が密に情報共有することでリスク排除に努め、安全に最適なリハビリがスピードをもって実施できるようチームで治療に当たっています。

◎こんなコト専門にしています

- 1 脳卒中やパーキンソン病など、
主に脳や神経の障害に対し行う
「脳血管疾患等リハビリテーション」
- 2 骨折や変形性関節症、スポーツ外傷などに行う
「運動器リハビリテーション」
- 3 肺炎や喘息などで息苦しく、
日常生活に支障の出ている場合に行う
「呼吸器リハビリテーション」
- 4 病気やけがの治療のための安静によって起こる
運動機能や心臓機能、呼吸機能の低下を改善するために行う
「廃用症候群リハビリテーション」



新たに、心疾患を持つ方や心臓手術後などのリハビリを行う「心大血管疾患リハビリテーション」

がんの手術や化学療法を受けられた入院の患者さんに行う「がん患者リハビリテーション」の2つのリハビリの認可を新たに
取得しました。これによって全ての診療科から、より多くの幅広い疾患の患者さんにリハビリを提供できるようになりました。

◎こんなコト目指します



急性期は、患者さんにとって身体的にも精神的にも最もつらい時期だと思います。そういう時にこそ患者さんに寄り添い、苦痛を和らげ、最大限の機能回復を図りたいと考えています。また急性期から回復期、生活期へと患者さんの治療が繋がっていくことから、法人内他施設や近隣施設などとも連携して、一日でも早く住み慣れた環境で生活を送っていただけるよう、スタッフ一同全力を尽くしていく所存です。

栄養管理部

●尾園 千佳 副士長
他 常勤管理栄養士4名

知識豊富な専門スタッフが入院中も
退院後も食事療法を継続的にサポート

◎こんなコトしています

甲南医療センター 入院時提供食事

栄養管理部では食事が「治療の一環」「安心・安全」「入院生活の楽しみ」でなければならないと考えています。
食事を通して、食事の量や組合せを視覚的に学んでいただくとともに、配布する食札には様々な栄養情報を掲載することで入院中～退院後の食事療法にお役立ていただきたいと思います。

◎ 入院患者給食業務

- 患者さんの状態、疾患に合わせた食事の提供
- 季節に合わせた食事の提供 ●安心・安全で美味しい食事療法のサポート



◎ 栄養管理業務

- 各病棟へ担当の管理栄養士を配属
患者さん一人ひとりの栄養状態や疾患に合わせた入院中の栄養プランを作成し、食事の摂取量や摂取状況などを定期的に確認
- 栄養サポートチーム(NST)や褥瘡防止対策チームなど
様々なチーム医療にも専門的に参画
- 外来、入院を問わず患者さまの「食事をどうしたらいいの?」という心配に寄り添い、安心していただけるように継続的なサポート



病棟ラウンド後ミーティング

◎こんなコト目指します

近年では、「人生100年時代」と言われるほど平均寿命が延びたことで「健康寿命」が重要視され始めています。しかし、偏った食生活による病状の悪化や栄養状態の不良に陥ることで健康に年を重ねられていない患者さんを多く見受けま

す。管理栄養士は、病院で唯一の栄養の専門家であり、栄養サポートの中心となり、栄養の治療を行う必要があります。今後も「信頼され、期待され、選ばれ、誇りがもてる」を栄養管理部の理念とし、食を通して、患者さん、地域の皆さんが身体も心も健康で100歳を迎えられるようサポートしていきたいと考えています。

お食事でお困りな事があれば、いつでもご相談ください。
私達、管理栄養士が「人生100年時代」をお約束いたします。

新病院入院患者さんの食食用厨房



地域連携/

●若狭 千草 部長 ●住田 博美 師長
●西山 まゆみ 副部長 他 常勤職員17名

患者サポートセンター

地域の医療機関との連携を強化し
退院後の生活をサポート

◎こんなコトしています

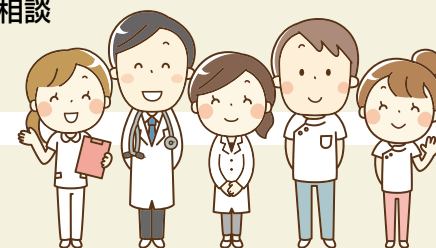
支援相談員による入退院支援相談の様子



患者サポートセンターは、甲南医療センター本館3階玄関を入られて左手奥に位置します。
ここでは、患者さんの通院、入院、退院及び退院後のケアまでの一連の支援を行ったり、療養生活・介護などにお困りの場合、看護師やソーシャルワーカーが相談に応じたりしています。必要に応じて関係機関と連携をとりますので、お気軽にご利用ください。
また、地域医療連携室として、地域の医師会の先生方や医療機関のスタッフの皆様と十分に連携をとりながら、患者さん中心の医療体制の充実に向けて努力いたします。

◎ 地域医療連携

- 紹介患者さんの外来・検査予約 ●紹介患者さんの受診・入院相談
- 病病連携 ●病診連携 ●セカンドオピニオン外来



◎ 医療・福祉相談

- 介護保険やその他の社会福祉制度の紹介
- 病院、施設の相談や情報提供 ●医療費などの経済的な問題 ●その他、お困りのこと

◎ 入退院支援

- 入院・転院・退院に関するご相談
- 在宅支援、訪問看護やかかりつけ医への相談
- 退院に向けて療養環境の準備、支援
- がん、床ずれ、認知症等の相談などございましたら、専門の看護師などへつなぎます。



◎ その他

- 地域の皆様の健康増進、予防に関する知識を深めていただけるように「市民公開講座」を定期的に開催。
- 地域の医療職・介護職を対象とした『交流会』を定期開催。
- 認定・専門看護師による看護職に対する『実践能力向上を目的とした公開講座』も開催。
- 認定・専門看護師による『同行訪問』をおこなっており、担当者につなぎ、在宅支援します。

貸切バスで 快適な旅

安全

快適

親切

グループでの
パーティーや旅行に

会社での
見学・研修に

クラブでの
合宿・試合に

豊富なバリエーションで、あらゆるシーンに対応いたします。



マイクロバス

乗務員 1 名
座席数 27
(内補助席 6)
トランク なし

中型送迎バス

乗務員 1 名
座席数 44
(内補助席 7)
トランク なし

大型観光バス

乗務員 1 名
座席数 53 ~ 56
(内補助席 8 ~ 10)
トランク あり

その他、ワゴン車タイプや大型送迎バスなどもございます。(いずれも運転手付き)



KOBE MINATO KANKO

みなと観光バス株式会社

〒658-0031 神戸市東灘区向洋町東1丁目4

TEL:078-845-3710 FAX:078-845-3713

<http://www.kobe-minato.co.jp> みなと観光バス 検索

ご相談・お問合せ・お見積り

お客様窓口 078-845-3710

国土交通省制定「新運賃料金制度」に基づいた適正料金にて運行いたしております。

天然温泉かけ流し



入館料 【営業時間】 6:00 ~ 23:30 (最終受付 23:00)

	平日	土・日・祝日
大人(中学生以上)	1,100円	1,200円
小人(3歳以上)	550円	600円
朝風呂	750円	800円

※朝風呂は6:00 ~ 9:00にご来館頂いた方が対象で10:00までのご利用となります。

※入館料に「バスタオル・タオル・館内着」が無料で付きます。

※朝風呂は「タオル・バスタオル」のみ無料で付きます。

岩盤浴 【営業時間】 9:00 ~ 22:30 (最終受付 22:00)

	平日	土・日・祝日
大人(中学生以上)	800円	900円

※大判タオル・館内着付き
※中学生以上からご利用
頂けます。



【フィットネスジム】
U-Fit

平日 6:00 ~ 23:00
(最終受付 22:30)
土日祝 6:00 ~ 21:00
(最終受付 20:30)



【アカスリエステ】
scrub(スクラブ)

10:00 ~ 23:00
(最終受付 22:30)



【ボディケア・フットケア】
体いやし處

10:00 ~ 23:00
(最終受付 22:30)



【レストラン】
UHARA KITCHEN

11:00 ~ 23:00
(LO 22:30)



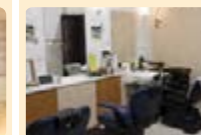
【カフェ】
うの花カフェ

10:00 ~ 23:00
(LO 23:00)



【カットサロン】
カット&カラー 涼

平日 11:00 ~ 20:00
土日祝 10:00 ~ 20:00



住吉川の清流を汲みし湯処



健康福祉センター
恋野温泉 うはらの湯

年中無休 (メンテナンスの為、不定休にて休館日あり)

【駐車場】100台(駐輪場完備)

・お風呂のみのご利用で「3時間」無料
・その他施設ご利用でプラス「3時間」最大「6時間」無料

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町4-1-3

TEL 078-854-1126

<https://www.uharanoyu.com/>



JR 住吉駅から南へ徒歩 10 分の好立地!



アクセスマップ



甲南医療センター

〒658-0064

兵庫県神戸市東灘区鴨子ヶ原1-5-16

TEL:078-851-2161(病院代表)

<http://www.kohnan.or.jp/kohnan/>

TEL:078-854-4370

(地域医療連携/
患者サポートセンター)

六甲アイランド甲南病院

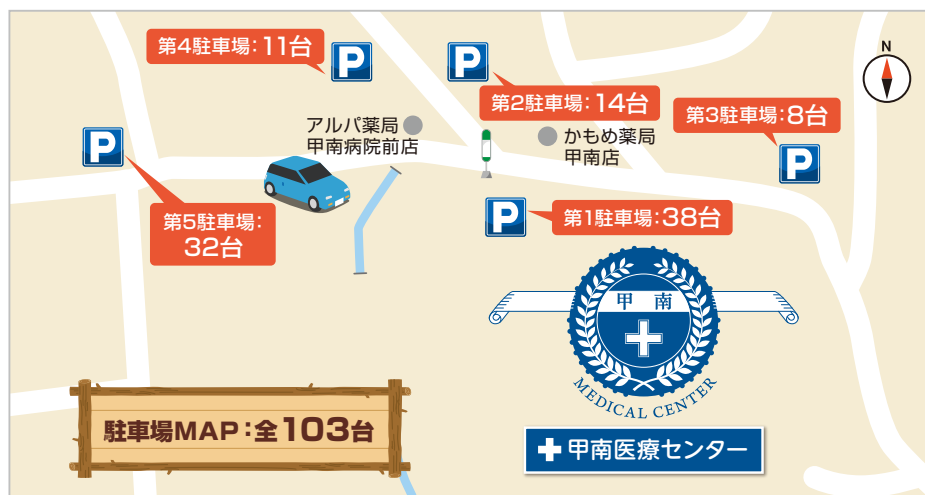
〒658-0032

兵庫県神戸市東灘区向洋町中2-11

TEL:078-858-1111(病院代表)

<http://www.kohnan.or.jp/rokko/>

TEL:078-858-2322

(地域医療連携/
患者サポートセンター)

車でのお越しの方へ

●大阪方面(東)から

(高速道路から)

阪神高速「魚崎」で降り、国道43号線「浜中」交差点を右折し、国道2号線へ。

(国道2号線から)

「御影中前」又は「東灘警察署」交差点から北方向、阪急電車「御影駅」へ走る。

阪急電車「御影駅」東側の高架下をくぐり抜けてすぐ左手の池(深田池)に沿って四つ角を左折。(正面に消防署があります。)

車道に沿って山道をのぼる。

3つ目の分かれ道の正面にある看板「甲南医療センター」を左側へ

(途中2カ所分かれ道がありますが、車道沿いに進んでください。)

●明石方面(西)から

(高速道路から)

阪神高速「摩耶」で降りて最初の信号を左折して北へ走り、国道2号線に出る。

(国道2号線から)

国道2号線を東へ10～15分位走り、左前方に「東灘警察署前」交差点で左折、北方向へ阪急電車「御影駅」へ向かって、駅東側の高架下をくぐり抜け、すぐ左手の池(深田池)に沿って四つ角を左折。(正面に消防署があります。)

車道に沿って山道をのぼる。

3つ目の分かれ道の正面にある看板「甲南医療センター」を左側へ(途中2カ所分かれ道がありますが、車道沿いに進んでください。)

電車・バスでお越しの方へ

- 阪急電車「御影駅」から神戸市バス19系統で約10分。「病院前」下車。
※ただし朝9時までは神戸大学付属小学校回りとなるため約25分かかります。

- JR西日本「住吉駅」からタクシーで約15分。(市バスはありません)

- 阪神電鉄「御影駅」から神戸市バス19系統で約20分。「病院前」下車
※ただし朝9時までは神戸大学付属小学校回りとなるため約35分かかります。